A large, stylized purple oval graphic with a gradient from dark purple to light purple, centered on the page. It has a thick, dark purple border and a lighter purple fill.

第2次 安曇野市生涯学習推進計画

平成 30(2018)年3月

安 曇 野 市

はじめに

安曇野市では平成 21 年度に『安曇野市生涯学習推進計画』を策定し、「あなたが 主役 ともに創ろう ともに学び ともに支え合う 生涯学習のまち」を基本理念に据えて、生涯学習の推進に努めてまいりました。平成 26 年度の改定を経て、平成 29 年度で所定の計画期間を満了することに伴い、施策目標の達成状況を検証した結果、多くの項目で目標を達成していることが確認できました。

しかし現状において「生涯学習」という言葉が市民の皆さんに十分に浸透し、誰もが生涯学習に取り組んでいるかということと必ずしもそうでない面もあります。本計画の策定に際し実施したアンケート結果からもそのことが読みとれます。

行政としても、市民の皆様の生涯学習を支える環境や体制づくり、さらにはその成果が生かせる場やしくみづくりなど、この活動を広げていくためにまだまだ取り組むべき施策も多数あるものと認識しています。

今後、より多くの市民の皆様に「生涯学習」の意義を知っていただき、人生を通して継続的に取り組み、自身のため、家族のため、地域のためにその成果を生かしていただけるよう、行政のみならず、各種組織・団体とも連携を図りながら、生涯学習の取り組みを後押ししていく考えです。

その道しるべとしてここに、「ふるさと安曇野をまるごと学びの場にして生きる」を新たな基本理念に据えた『第 2 次安曇野市生涯学習推進計画』を策定し、生涯学習のさらなる推進に取り組んでまいりますので、皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、本計画の策定にあたり、貴重なご意見、ご提言を賜りました第 2 次安曇野市生涯学習推進計画策定委員会の皆様をはじめ、ご協力いただきました市民の皆様に心より感謝申し上げます。

平成 30 (2018) 年 3 月

安曇野市長 宮澤 宗弘

目次

第1章 計画策定にあたっての基本的事項

1.1 生涯学習の定義	2
1.2 生涯学習の意義と役割	2
1.3 生涯学習推進計画の策定の趣旨と背景	3
1.4 本計画の位置付けと性格	3
1.5 本計画の対象期間	3

第2章 本市の生涯学習を取り巻く環境

2.1 社会情勢の変化	4
2.2 行政の生涯学習に関する取り組み動向	5

第3章 生涯学習に関する市民の意識と実態

3.1 全体の傾向 ～アンケート結果のグラフから読む～	8
3.2 ライフステージごとの特徴 ～アンケート結果の年齢による違いに着目～	11

第4章 生涯学習の基本理念とスローガン

4.1 上位計画の目標等	12
4.2 生涯学習の基本理念	13
4.3 ライフステージごとの生涯学習のスローガン	13

第5章 生涯学習の推進に向けた施策展開

5.1 学習機会の充実	14
5.2 学習成果の活用	40

第6章 本計画の進め方

6.1 総合的な推進体制の継承 ～各主体の役割の明確化～	52
6.2 計画管理の手法 ～計画の実効性の担保～	54

付属資料

資料1 計画策定の主な経過	59
資料2 計画策定に係る委員会等	60
資料3 用語解説	66

第1章 計画策定にあたっての基本的事項

1.1 生涯学習の定義

「生涯学習」とは、乳幼児期から高齢期まで人生の各段階で、個人や家庭、職場、地域社会に生じる課題等に応じて、自己実現や社会貢献、地域の課題解決を目指し、自発的意思に基づいて行うことを基本とした学習活動です。

その活動内容は幅広く、学校や職場、行政や公民館活動などで意図的・組織的に行われる学習活動のみならず、個人や家族、仲間と日常的に行うスポーツ活動、文化活動、趣味・レクリエーション活動、さらにはボランティア活動、企業内教育なども含まれ、活動の場は、家庭や学校、職場から地域社会に至るまで広範囲に及ぶものです。

1.2 生涯学習の意義と役割

生涯学習は、何かを学ぶこと、楽しむことで一人ひとりの人生を生きがいのある充実したものにするだけでなく、学びを通じて人と人とがつながり、お互いに尊重し合い、交流を深めながら、皆が幸せと誇りを感じられる、豊かで住みよい地域社会の構築に資する役割も期待されています。



1.3 生涯学習推進計画の策定の趣旨と背景

安曇野市生涯学習推進計画（以下「第1次計画」という）は、本市の生涯学習を計画的かつ総合的に進めるために平成21年8月に策定しました。

第1次計画は平成21年度から平成29年度までの9年間を対象とし、前期を平成21年度から平成24年度の4か年、後期を平成25年度から平成29年度の5か年としていましたが、本市の組織の改編と運用実績を踏まえ、後期を平成27年度から平成29年度の3か年に変更して、平成26年度に計画改定を行いました。

平成29年度をもって第1次計画の対象期間が満了することに伴い、『第2次安曇野市生涯学習推進計画』（以下「本計画」という）を策定することとしました。

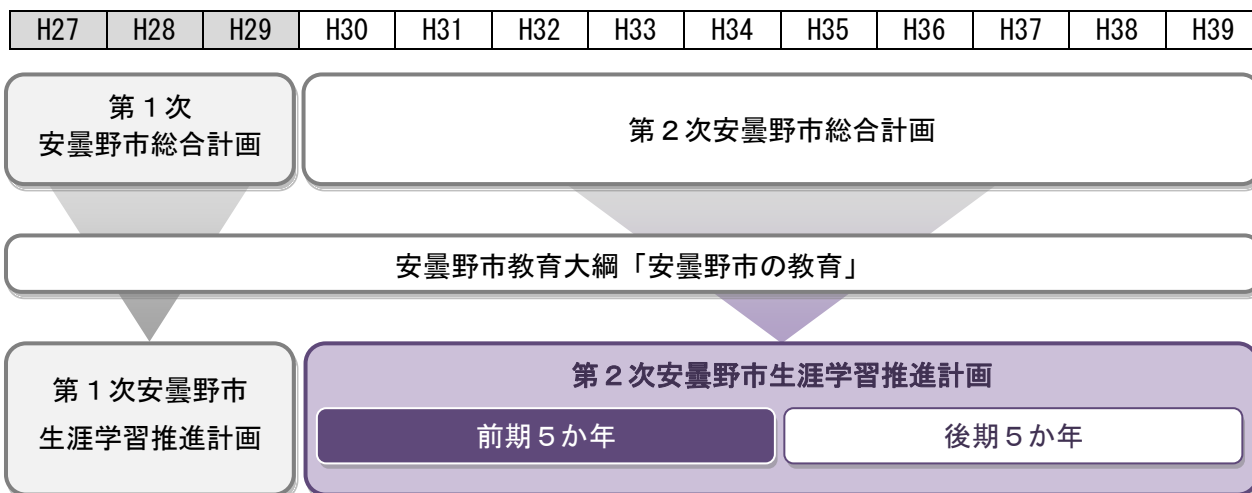
1.4 本計画の位置付けと性格

本計画は『第2次安曇野市総合計画』（平成29年度策定、以下「総合計画」という）や安曇野市教育大綱「安曇野市の教育」（平成27年度策定、以下「教育大綱」という）を上位計画として、本市における生涯学習に関わるすべての取り組みの指針となるものです。

したがって、総合計画との整合を図るとともに、関連する諸計画とも連携して、生涯学習の推進を図るものとします。

1.5 本計画の対象期間

本計画の対象期間は総合計画に合わせて、平成30（2018）年度から平成39（2027）年度までの10か年とします。平成30（2018）年度から平成34（2022）年度までの5か年を前期、平成35（2023）年度から平成39（2027）年度までを後期とし、平成34（2022）年度には前期の課題や進捗状況等を踏まえて、計画の見直し、必要な改定を行います。^(年度)



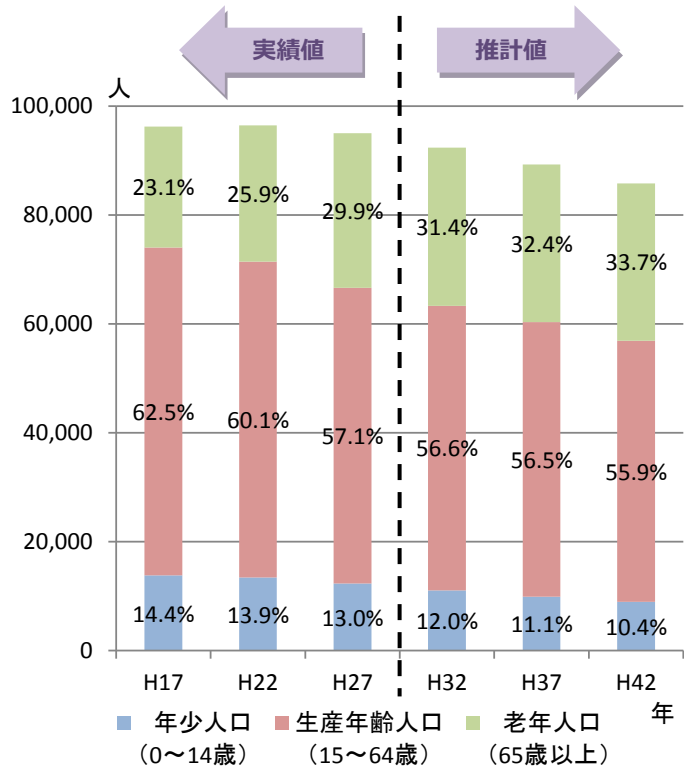
第2章 本市の生涯学習を取り巻く環境

2.1 社会情勢の変化

(1) 少子高齢化・人口減少社会の進行

全国的な傾向と同様に、本市でも少子高齢化と人口減少が確実に進むなか、今後見込まれる地域経済の縮小や地域コミュニティの担い手不足、社会保障費の負担増が大きな課題となっています。

これらの社会的課題に対応するため、高齢者を含めて住民一人ひとりが生きがいをもち、健康の維持・増進に努めながら自己実現を図るとともに、その学習成果を有効活用し、社会への参画を通じて、個人の自立や地域社会の共助につなげていく取り組みが今まで以上に求められています。



出典：国立社会保障人口問題研究所

安曇野市の人口動態と将来推計

(2) 経済のグローバル化や ICT 技術の急速な進展

経済のグローバル化や、ICT^{巻末1}の急速な進展により、近年、社会の変化の速度が速まりつつあります。これらに応じて、人々は絶えず新たな能力や知識、技術の習得が求められ、知的関心の高まりとともに、個人や社会のニーズを踏まえた学習機会の提供が求められています。

(3) 個人の価値観やライフスタイルの多様化

社会の成熟化に伴い、個人の価値観やライフスタイルが多様化し、地域に根差した学習活動の機会は減少傾向にあります。その一方で、インターネットや SNS (Facebook や Twitter など)^{巻末2}の普及により、それらの機能を活用した学習機会の提供や学習コミュニティの形成など、人々の学習スタイルや学習環境に大きな変化もみられるようになってきました。

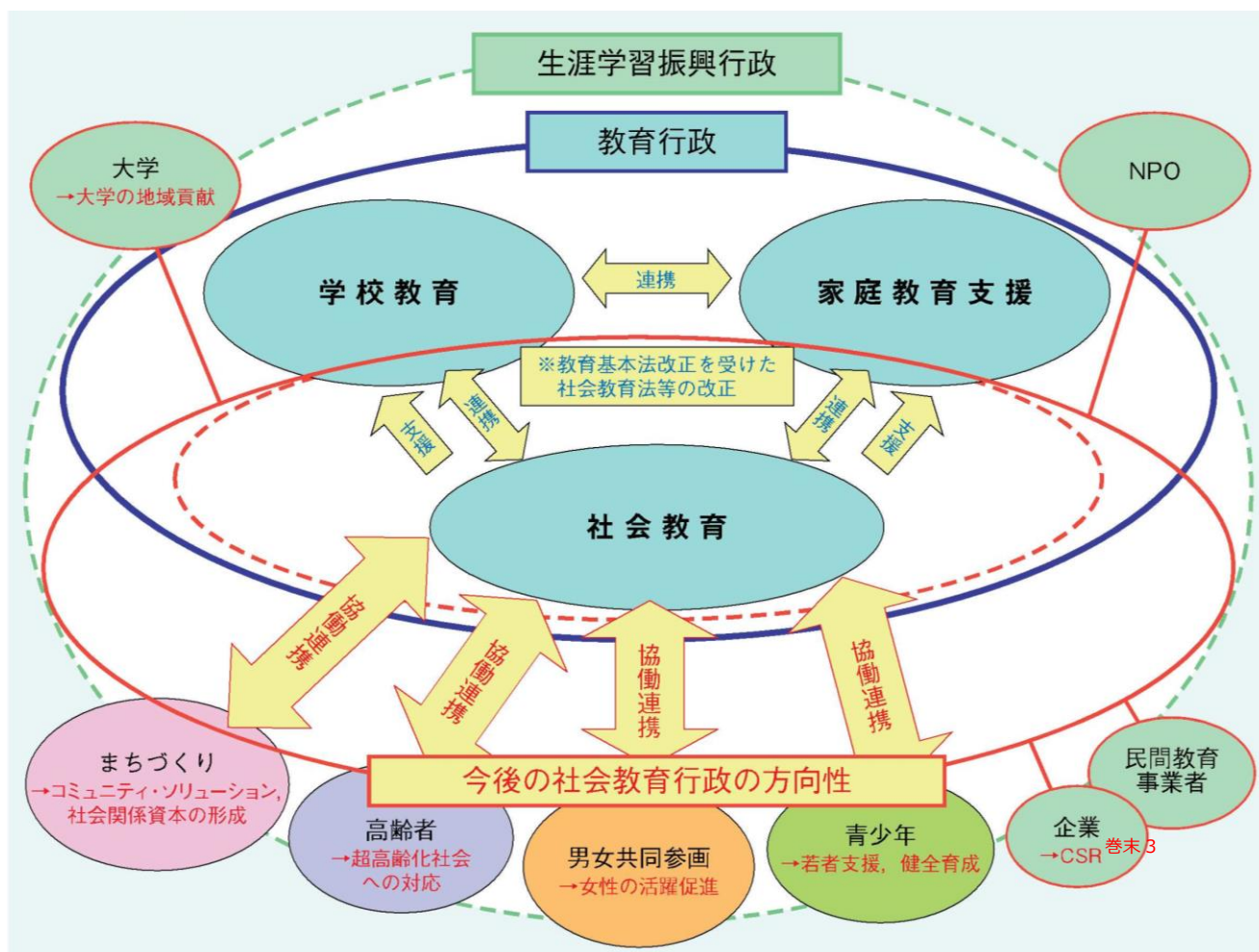
地域の課題も複雑化するなかにあって、こうした変化を捉えて、学習機会の充実と学習成果の活用の方策を考えていく必要があります。

2.2 行政の生涯学習に関する取り組み動向

(1) 国の生涯学習に関する取り組み動向

文部科学省では、学校教育、家庭教育支援、社会教育からなる教育行政を包括するかたちで、まちづくりや高齢者、男女共同参画、青少年、企業、民間教育事業者、大学、NPOなどと協働・連携して取り組む方向性を描き、生涯学習の振興が図られてきました。

国民一人ひとりが自己の人格を磨き、豊かな人生を送れるよう、生涯にわたって、あらゆる機会や場所で学習でき、その成果を適切に生かせる社会の実現を目指し、近年は、個々の潜在能力を最大限に伸ばす観点からの施策が集中的に実施されています。また、地域課題解決の担い手の育成や家庭教育の支援、青少年の健全な育成のための取り組みも進められています。



出典：平成 24 年度文部科学白書（抜粋）

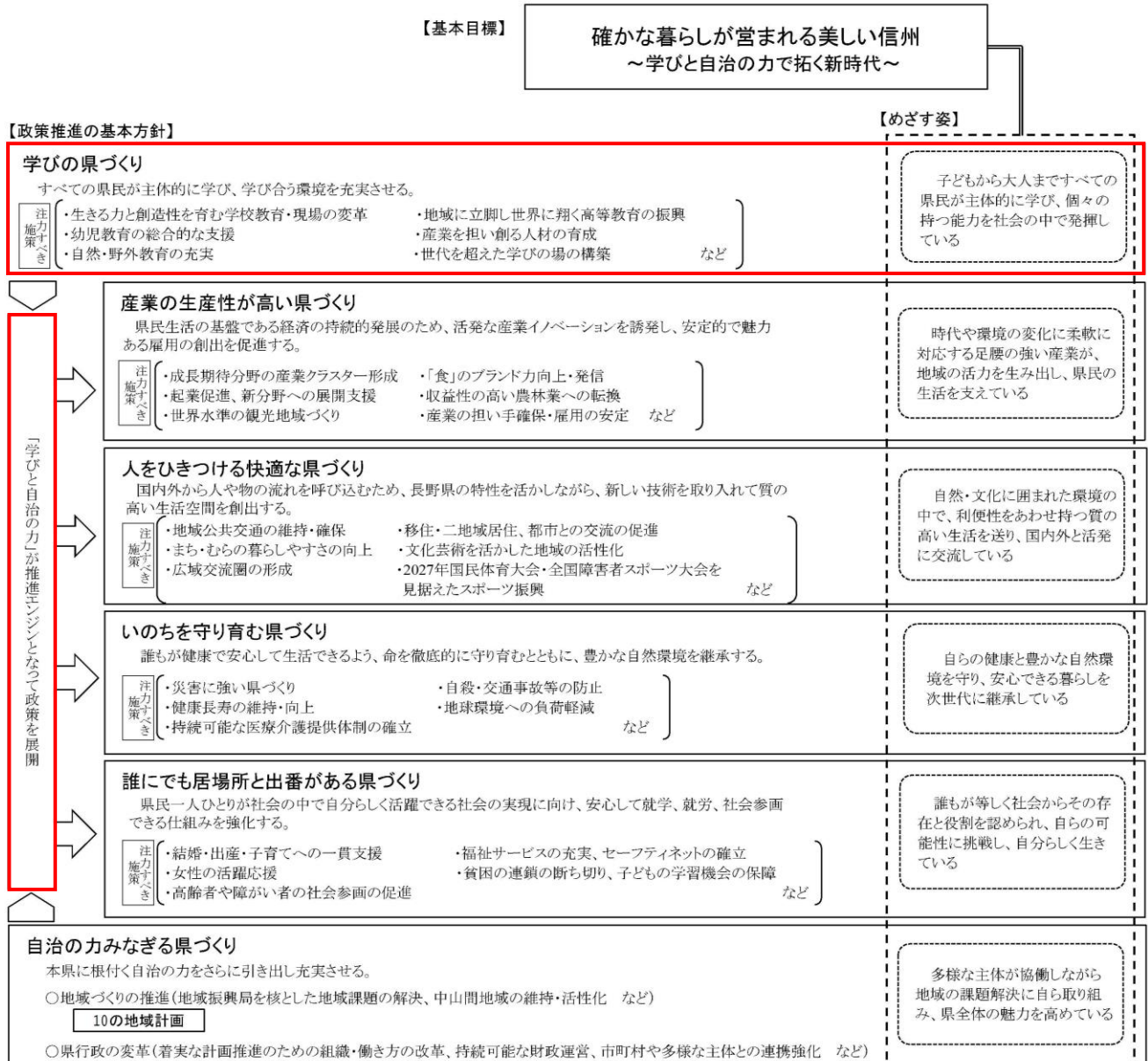
今後の社会教育行政の再構築のイメージ

(2) 県の生涯学習に関する取り組み動向

長野県は、生涯学習に関して、平成 25 年 3 月に策定した『第 2 次長野県教育振興基本計画』のなかで「学びの成果が生きる生涯学習の振興」を基本施策に掲げ、学習成果の活用に力点をおいています。具体的な施策の方向としては「学びが循環する社会の創造」と「子どもの未来づくり」を挙げ、必要な取り組みを示しています。

また平成 29 年 11 月に答申された『次期総合 5 か年計画（しあわせ信州創造プラン 2.0）』では、政策推進の基本方針として、「学びと自治の力」を推進エンジンとした政策展開を描き、「学びの県づくり」を基本方針のトップに掲げて、「子どもから大人まですべての県民が主体的に学び、個々の持つ能力を社会の中で発揮」させることを目指しています。

また、文化の日に合わせて 11 月を「生涯学習月間」として、県民一人ひとりの生涯学習の意識向上や、あらゆる場で生涯学習活動ができる環境づくりの促進に努めています。



(3) 市の生涯学習に関する取り組み動向

安曇野市では平成 21 年度から平成 29 年度に至るまで、各所管課において第 1 次計画に基づく施策展開を図り、生涯学習の取り組みを推進してきました。施策ごとに定めた指標に対する実績値と目標値を比較し、施策の達成状況を下表のとおり検証しました。

第 1 次安曇野市生涯学習推進計画の施策体系及び施策指標の実績値と目標値

基本目標	施策名	施策指標名	施策指標に対する実績値と目標値										所管課 ※太字＝施策指標担当			
			実績値										目標値		課名	係名
			H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H24	H29*				
①生涯各段階に応じた学習機会の充実	(1) 乳幼児期	家庭教育講座数(回/年) ≪地域子育て支援事業≫	230	265	217	205	935	996	889	859	180	180	1,800	子ども支援課 社会教育担当 生涯学習課	児童係 社会教育担当 (子ども支援)	
	(2) 青少年期	児童館利用者数(人/年)	73,180	78,000	81,633	91,294	92,318	96,955	104,137	99,816	80,000	85,000	100,000	子ども支援課 学校教育課 生涯学習課	児童係 教育指導室 社会教育担当 (子ども支援)	
	(3) 成人期	生涯学習講座数(回/年)	68	95	116	107	115	108	105	97	120	126	150	生涯学習課 地域課	社会教育担当 地域担当	
	(4) 高齢期	高齢者の生きがいづくりと健康づくり推進事業補助金交付数	93	86	93	95	93	92	90	89	40	90	99	長寿社会課	長寿福祉係	
②現代社会の課題や市民の学習要望に応える学習機会の充実	(1) 環境学習の推進	環境学習プログラム等による環境学習の実施(回/年)	—	—	5	5	7	7	8	9	5	10	10	環境課	環境政策係	
	(2) 健康学習の推進	地区学習参加者数(人/年)	—	—	—	—	9,731	8,954	6,436	7,208	—	—	10,000	健康推進課	健康推進係 保健予防係 健康支援担当	
	(3) 地域福祉を進める学習の推進	ボランティア団体数	150	169	153	147	168	179	205	203	230	245	200	長寿社会課	福祉政策担当	
	(4) 生涯スポーツ活動の推進	スポーツイベント参加者数(人/年)	21,160	21,193	22,259	19,341	17,390	24,822	26,678	35,418	29,300	30,700	30,700	生涯学習課	スポーツ推進担当	
	(5) 芸術文化活動の振興	芸術・文化講座など参加者数(人/年)	8,621	10,776	12,243	7,790	13,987	15,219	14,382	14,844	6,960	7,170	12,500	文化課 図書館交流課	文化振興係 博物館係 図書館交流担当	
	(6) 国際理解・外国人支援活動の推進	外国人支援相談件数(回数/年)	2,370	1,382	1,805	1,524	829	658	955	569	1,700	1,500	1,000	政策経営課 地域づくり課 人権男女共同 参画課 生涯学習課	都市交流係 市民相談室 人権男女共生係 社会教育担当	
	(7) 地域の安全・安心を進める活動の推進	自主防災組織設置数	78	81	83	83	83	83	83	83	83	83	83	83	危機管理課 地域づくり課	危機管理担当 生活安全係
	(8) 人権尊重の学習の推進	人権教育参加者数(人/年)	2,807	3,518	3,165	2,495	2,503	4,263	4,907	4,407	3,000	3,100	3,200	人権男女共同 参画課 生涯学習課	人権男女共生係 社会教育担当	
	(9) 情報化に対応した学習の推進	パソコン等IT関係講座(回数/年)	29	10	20	20	21	6	5	4	34	40	40	情報統計課 地域課 生涯学習課	情報政策係 地域担当 社会教育担当	
③生涯学習を支える環境の整備	≪生涯学習施設の整備と有効活用≫															
	(1) 公民館の機能強化	地域公民館団体利用者数(豊科公民館ホールを除く)(人/年)	141,968	137,228	129,806	142,453	131,556	124,048	108,620	133,344	147,900	157,800	150,700	地域課 生涯学習課	地域担当 社会教育担当	
	(2) 交流学習センターの整備充実													図書館交流課	図書館交流担当	
	(3) 図書館の整備促進	図書館の年間利用者数(人/年)	237,138	263,742	391,140	383,472	381,241	361,541	379,225	414,307	170,000	280,000	440,000	図書館交流課	図書館交流担当	
	(4) 美術館などの文化施設機能の充実	芸術・文化活動者数(人/年)	3,424	3,188	3,031	2,857	2,726	2,755	2,656	2,733	3,633	3,700	3,200	文化課 地域課	文化振興係 博物館係 地域担当	
	(5) スポーツ施設の整備充実	体育協会加入者数(人/年)	6,972	6,855	6,775	6,451	6,258	5,945	5,825	6,214	7,500	8,000	8,000	生涯学習課	スポーツ推進担当	
	≪学習情報の提供と学習相談体制の充実≫															
(1) 学習情報の収集・提供の充実	市民情報交流拠点設置数(箇所)	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1	地域づくり課 地域課	まちづくり推進係 地域担当 地域担当 社会教育担当		
(2) 学習相談体制の整備充実														地域課 生涯学習課	地域担当 社会教育担当	
(2) 生涯学習のための時間がとれない人々への学習支援	ファミリーサポートセンター登録者数(人/年)	843	941	1,056	1,049	897	916	945	867	650	700	1,000	子ども支援課 長寿社会課 福祉課 生涯学習課	児童係 長寿福祉係 障がい福祉担当 社会教育担当		
④支えあう協働のまちづくり ①学習成果を活かす ②一人ひとりが果たすまちづくり	(1) 成果発表の機会の充実													生涯学習課	社会教育担当	
	(2) ボランティア活動の推進													長寿社会課 生涯学習課	福祉政策担当 社会教育担当	
	(3) 市民と行政の協働の推進	市民活動センターへの登録団体数	32	37	38	51	57	57	57	59	70	100	150	地域づくり課 生涯学習課	まちづくり推進係 社会教育担当	
	(4) 市民交流の推進	地域公民館団体利用件数(豊科公民館ホールを除く)(件/年)	10,013	9,144	8,312	8,675	7,840	7,352	6,438	8,626	9,280	9,990	9,000	人権男女共同 参画課 政策経営課 地域課 図書館交流課 生涯学習課	人権男女共生係 都市交流係 地域担当 図書館交流担当 社会教育担当	
②一人ひとりが果たすまちづくり	(1) 生涯各段階に応じた役割を果たすまちづくり	放課後子ども教室登録児童数(人/年)	926	827	903	992	862	806	932	991	1,165	1,456	950	学校教育課 生涯学習課	学校教育係 社会教育担当 (子ども支援)	
	(2) 風土に根ざした技や知恵を広げ伝える仕組みの構築													生涯学習課	社会教育担当	
	(3) リーダーバンク制度の充実	リーダーバンク登録数(個人・団体/年)	82	77	88	85	85	92	70	74	68	78	90	生涯学習課	社会教育担当	

注 1) 表中「—」は施策指標の見直しにより、それ以前の実績値を把握していない箇所

※上段:当初の目標値 下段:H27見直し後の目標値

注 2) 表中斜線部は施策指標の設定がない箇所

第3章 生涯学習に関する市民の意識と実態

3.1 全体の傾向 ～アンケート結果のグラフから読む～

①生涯学習の必要性を感じている人が約 61%いるのに対し、②過去5年間で生涯学習の取り組みをした人は約 44%に留まっています。その要因は様々ですが、③生涯学習の妨げ要因上位5項目をみると、時間の問題、きっかけがない、情報が無い、費用がかかる、体調の問題の順になっています。

⑩『広報あづみの』は最も効果的な情報提供手段として認識され、⑨実際に最も利用されている一方で、⑩回覧板や市のホームページは比較的効果的な情報提供手段だと思われるながら、⑨実際にはあまり有力な情報入手手段となっていないことがわかります。

⑪いま取り組んでいる生涯学習の内容はスポーツが最多で、次いで健康づくりとなっていますが、⑬新たに学びたい分野・関心のある内容では健康づくりが突出して多く、これに呼応して、⑭学びから役立てたいことも健康維持、老化防止が最多です。またこれと同程度に、自らの生きがいづくりを挙げる人が多く、生涯学習の大きな目的の一つであるといえます。

《アンケートの実施概要》

- 調査期間：平成 28 年 11 月
- 調査対象：安曇野市在住の 18 歳以上の男女
- 配布者数：2,500 名（層化無作為抽出）
- 回答者数：800 名（回答率：32%）

③ 生涯学習の妨げ要因

あなたが生涯学習に取り組むことへの妨げになっていること、あるいは生涯学習に取り組めない理由があれば教えてください。

〈複数回答〉	回答数	回答率(%)
仕事・学校が忙しい	275	34.4
きっかけがない	205	25.6
情報が無い	153	19.1
費用がかかる	123	15.4
体調の問題	112	14.0
特になし	108	13.5
仲間がいない	85	10.6
子育て中のため	63	7.9
移動手段がない	50	6.3
施設がない	45	5.6
生涯学習に興味はあるが魅力的な活動がない	45	5.6
介護中のため	43	5.4
指導者がいない	29	3.6
そもそも生涯学習に興味がない	27	3.4
その他	21	2.6

⑤ 「生涯学習」という言葉の認知度

あなたは「生涯学習」という言葉の意味をご存知ですか。

〈択一回答〉	回答数	回答率(%)
知っている	243	30.4
何となくはわかる	321	40.1
意味はわからないが言葉は聞いたことがある	180	22.5
言葉として初めて聞いた	47	5.9
無回答	9	1.1

① 生涯学習の必要性

あなたは、学校教育終了後も生涯にわたって学び続けることは必要だと思いますか。

〈複数回答〉	回答数	回答率(%)
必要だと思う	491	61.4
必要だと思わない	10	1.3
わからない	175	21.9
無回答・無効	124	15.5

② 過去5年間の生涯学習の取り組み状況

あなたはこの5年くらいの間に、生涯学習の取り組みをなされましたか。

〈択一回答〉	回答数	回答率(%)
はい	349	43.6
いいえ	451	56.4

④ 生涯学習を行う頻度

あなたが生涯学習を行う頻度を教えてください。

〈択一回答〉	回答数	回答率(%)
毎日	19	5.4
週に数回	74	21.2
月に数回	145	41.5
年に数回	100	28.7
無回答	11	3.2

⑥ 生涯学習でよく利用する施設

次の施設うち、あなたが生涯学習の場としてよく利用する施設があればお選びください。

〈複数回答〉	回答数	回答率(%)
公民館	145	41.5
図書館	121	34.7
体育館	81	23.2
交流学习センター	79	22.6
運動場・グラウンド	67	19.2
その他施設	61	17.5
美術館	59	16.9
公園	58	16.6
博物館・資料館	42	12.0

：8ページの説明と対応する項目を赤枠で強調

：各グラフで最も回答率の高かった項目を薄黄色で強調

⑦ いま取り組んでいる生涯学習の手段や機会

あなたがやっている生涯学習の方法について教えてください。

〈複数回答〉	回答数	回答率(%)
自主的な集まりやサークル活動	174	49.9
個人的な活動	123	35.2
各種団体や企業の講座・講習・教室等	122	35.0
市主催の講座・講習・教室等	103	29.5
自らが主催者側に関わる活動	37	10.6
国や県主催の講座・講習・教室等	34	9.7
大学や専門学校の公開講座	19	5.4
通信教育や放送大学	12	3.4
その他	12	3.4

⑨ 現在の情報入手手段

あなたが生涯学習に関する情報をどのような方法で入手されているか教えてください。

〈複数回答〉	回答数	回答率(%)
『広報あづみの』	161	46.1
知人の紹介(口コミ)	136	39.0
新聞、雑誌	125	35.8
インターネット	99	28.4
ポスター、チラシ	72	20.6
回覧板	62	17.8
テレビ、ラジオ	40	11.5
その他	25	7.2
市ホームページ	17	4.9

⑪ いま取り組んでいる生涯学習の内容

あなたが取り組んでいる生涯学習の内容を教えてください。

〈複数回答〉	回答数	回答率(%)
スポーツ	129	37.0
健康づくり	114	32.7
芸術	69	19.8
趣味などその他	63	18.1
職業上必要な知識・技能・資格	60	17.2
ボランティア	58	16.6
子育て、教育	49	14.0
地域づくり	43	12.3
パソコン、インターネット	31	8.9
安曇野市の歴史や風土	31	8.9
身近な自然環境や地域環境の保全	29	8.3
外国語の学習	24	6.9
防犯、防災	20	5.7
ガイドや指導者として人に伝える技術	17	4.9
マネー・ライフプラン	13	3.7

⑬ 新たに学びたい分野・関心のある内容

あなたが今後、生涯学習の一つとして新たに学びたいと思う分野や関心のあるテーマがあれば教えてください。

〈複数回答〉	回答数	回答率(%)
健康づくり	338	42.3
スポーツ	193	24.1
芸術	142	17.8
職業上必要な知識・技能・資格	120	15.0
パソコン、インターネット	118	14.8
特にない	113	14.1
安曇野市の歴史や風土	109	13.6
外国語の学習	106	13.3
子育て、教育	102	12.8
ボランティア	90	11.3
趣味などその他	87	10.9
マネー・ライフプラン	83	10.4
防犯、防災	82	10.3
身近な自然環境や地域環境の保全	78	9.8
地域づくり	77	9.6
ガイドや指導者として人に伝える技術	37	4.6

⑧ 生涯学習に取り組んでよかったと思うこと

あなたが生涯学習に取り組んでよかったと思うことは何ですか。

〈複数回答〉	回答数	回答率(%)
共通の目的を持つ人との交流が深まった	181	51.9
健康の回復や健康増進に役立った	169	48.4
新たな知識や技能が身に付いた	162	46.4
生きがい生まれた	107	30.7
地域や人の役に立つことができた	102	29.2
自然・社会・文化への理解・関心が高まった	91	26.1
仕事や就職に活かすことができた	56	16.0
その他	8	2.3
とくにない	5	1.4

⑩ 効果的だと思う情報提供手段

あなたが生涯学習活動をするために必要な情報は、どのように提供されるとよい(効果的)と思いますか。

〈複数回答〉	回答数	回答率(%)
『広報あづみの』	520	65.0
回覧板	286	35.8
新聞、折込チラシ	261	32.6
市のホームページ	209	26.1
インターネット	196	24.5
ポスター、チラシ	146	18.3
テレビ、ラジオ	140	17.5
フリーペーパー(無料情報誌)	132	16.5
FacebookやTwitterなどのSNS	68	8.5
わからない	66	8.3
その他	16	2.0

⑫ 効果的だと思う情報提供の場所

あなたが生涯学習をするために必要な情報は、どのような場所で提供されるとよい(効果的)と思いますか。

〈複数回答〉	回答数	回答率(%)
身近な生活利便施設※	323	40.4
図書館、交流学習センター	297	37.1
市役所	257	32.1
公民館	241	30.1
わからない	94	11.8
体育館	68	8.5
その他お住まいの身近な公共施設	67	8.4
その他	34	4.3

※スーパーマーケット、コンビニエンスストア、銀行、郵便局等

⑭ 学びから役立てたいこと

あなたは生涯学習で学んだことを何に役立てたいと思いますか。理想も含めてお聞かせください。

〈複数回答〉	回答数	回答率(%)
健康維持、老化防止	446	55.8
自らの生きがいづくり	422	52.8
教養の向上	265	33.1
生活の安定・安全確保・質的向上	174	21.8
仕事や就職	114	14.3
地域づくりの推進	94	11.8
社会福祉活動	88	11.0
特にない・生涯学習に関心がないので答えようがない	80	10.0
地域の子どもたちへの学習活動	74	9.3
身近な自然環境や地域環境の保全	72	9.0
地域の伝統文化の継承	62	7.8
国際交流の発展	42	5.3
ガイドや指導者としての活動	32	4.0
その他	6	0.8

⑮現在の生涯学習の環境や機会・サービス提供の状況等を示す 33 項目への評価の結果を指標化し、改善・強化の必要性（指標 2 の数値）の高い順に並べてみました。この表で上位にある項目ほど、今後の対策検討に必要性が相対的に高い項目として捉えることができます。

そのなかでも、現状における満足度（指標 1 の数値）が相対的に低い項目（例えば、下表のア、イ、オ、カ、キ、ク、ケ、コ、シ、ス、セ、タ、チ）ほど課題の多い項目として捉えることができ、その要因を明らかにしたうえで、今後の対策を立てる必要があります。

⑮ 生涯学習の「現状に対する満足度」と「改善・強化の必要性」

以下ア～ムの33項目について、「①現在、安曇野市で生活する中でどのように感じているか」と、「②今後、安曇野市としてさらに現状を改善・強化すべきか」という2つの視点で、あなたのお考えに最も近い番号をお選びください。

※上記①、②について5段階評価の結果をそれぞれ指標化→

〈択一回答〉	指標1	指標2
	現状に対する満足度 低 ⇄ 高	改善・強化の必要性 低 ⇄ 高
ア 青少年がのびのびと遊び、学べる場が充実している	■	■
イ 音楽や演劇などの公演を市内で鑑賞することができる	■	■
ウ 誰もが気軽にスポーツを楽しめる環境が整っている	■	■
エ 小学校入学までに、子供が心や五感を育むための場所や機会がある	■	■
オ 市民の要望に応じた事業や講座を市職員が積極的に企画・運営している	■	■
カ 仕事に役立つ知識や技術を身に付ける学習の機会が充実している	■	■
キ 退職後の生きがいづくりのための機会が充実している	■	■
ク 学習したいと思ったときに、気軽に相談できる窓口がある	■	■
ケ 誰もが学習に参加しやすい環境が整っている	■	■
コ 風土に根ざした技や知恵が、確実に次の世代に受け継がれている	■	■
サ 子育てに関する講座が充実している	■	■
シ 地域において支え合うための意識づくりが進んでいる	■	■
ス リーダーバンク制度が充実している	■	■
セ 安心・安全な地域づくりのための学習の機会がある	■	■
ソ 高齢者が健康を維持するための学習の機会が充実している	■	■
タ 市民と行政の協働のまちづくりが進んでいる	■	■
チ 情報化に対応するための学習の機会が充実している	■	■
ツ 環境問題について学習する機会が充実している	■	■
テ 健康に関する情報や学習の機会が提供されている	■	■
ト ボランティア活動に積極的に取り組める環境が整っている	■	■
ナ 外国人住民と互いに認め合う地域づくりが行われている	■	■
ニ 様々な情報媒体から学習情報を収集することができる	■	■
ヌ 様々なスポーツを市内のスポーツ施設で行うことができる	■	■
ネ 市民同士の交流が盛んに行われている	■	■
ノ 生涯学習の成果である知識や技能が地域に還元されている	■	■
ハ 芸術文化について学ぶ機会がある	■	■
ヒ 市立の美術館・博物館では施設の特色を活かした展示や学びの場が提供されている	■	■
フ 交流学習センターは市民活動の場として活用されている	■	■
ヘ 公民館は地域の学習・交流の場としての役割を果たしている	■	■
ホ 人権について正しく理解するための学習の機会がある	■	■
マ 図書館では市民の要望にあった情報サービスが提供されている	■	■
ミ 市立の各生涯学習施設は、市職員が適切に管理・運営している	■	■
ム 学習した成果を発表する機会がある	■	■

《グラフの読み方》

指標1：赤色の横棒が左方向に長いほど、現状に対する満足度が低い、すなわち相対的に課題が多いと読める。

指標2：赤色の横棒が右方向に長いほど、改善・強化の必要性が高い、すなわち相対的に対策検討の必要性が高いと読める。

3.2 ライフステージごとの特徴 ～アンケート結果の年齢による違いに着目～

アンケート結果を、性別や年齢、職業など回答者の属性で分析したところ、年齢による違いが比較的顕著にみられました。就職や結婚、子育て、介護、退職など生活スタイルが変化する時期を目安に、年齢を大きく4つの世代に区分し、各世代の特徴を「ライフステージごとの特徴」として捉え、下表にまとめました。

生涯学習の取り組みを今後、より一層推進していくためには、このライフステージごとの特徴を踏まえた、きめ細かな施策展開が求められます。

ライフステージごとの特徴

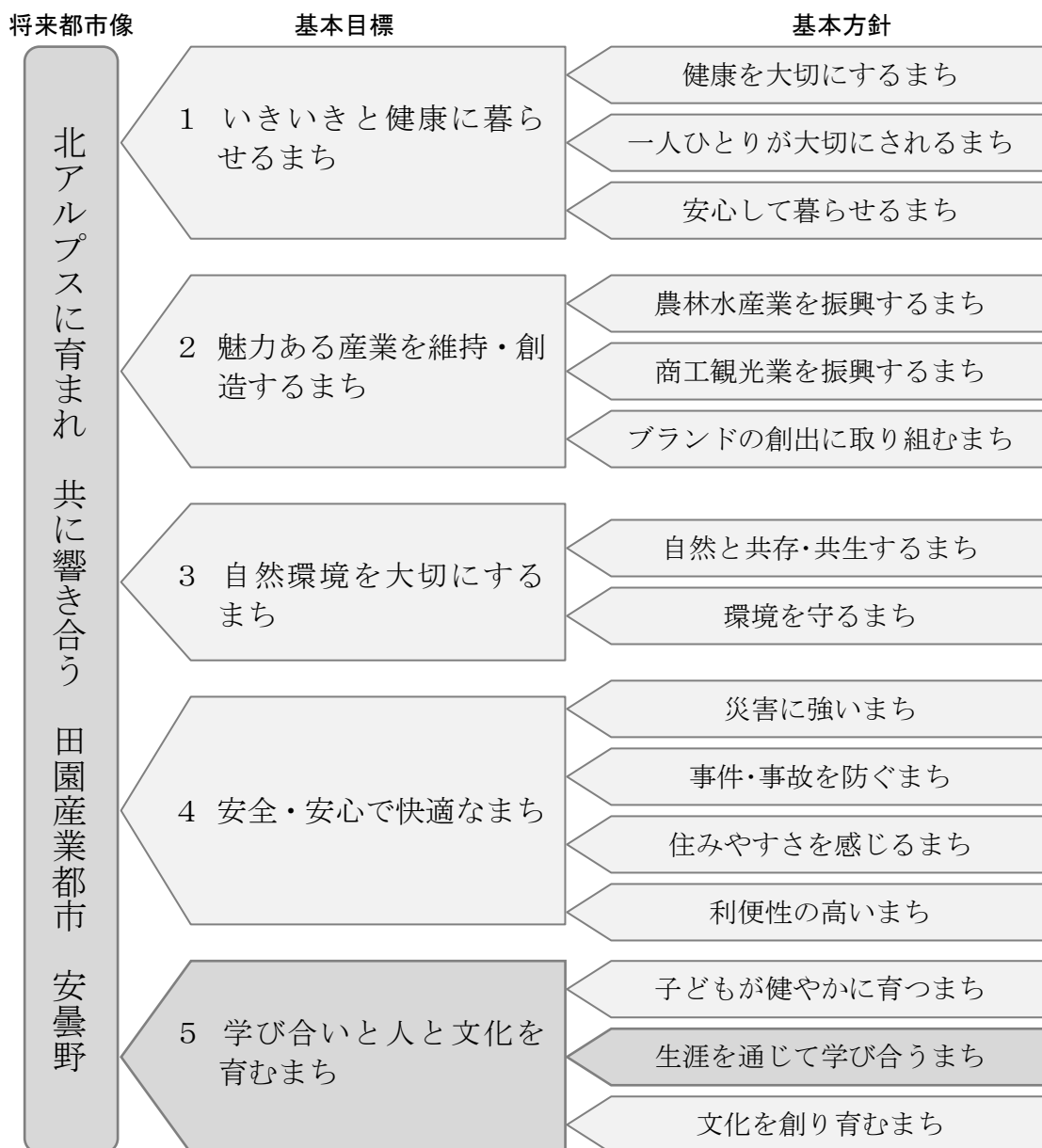
世代区分	「生涯学習」という言葉の認知度	過去5年間の生涯学習の取り組み状況	生涯学習の妨げ要因	新たに学びたい分野・関心のあるテーマ	生涯学習を通じて役立てたいと思っていること	効果的だと思う情報提供手段
24歳以下	・4つの世代区分のなかで、最も認知度が低い	・4つの世代区分のなかで、最も生涯学習に取り組んでいる人が少ない	・仕事や学校が忙しい ・きっかけがない ・情報がない	・スポーツ ・職業上必要な知識 ・パソコン、インターネット ・外国語 ・芸術	・仕事や就職 ・教養の向上 ・生活の安定	・インターネット ・ポスター ・折込チラシ ・SNS ・『広報あづみの』
25～44歳	・24歳以下の世代に次いで、認知度が低い	・45～65歳の世代に次いで、生涯学習に取り組んでいる人が多い	・24歳以下世代と同様の理由 ・費用がかかる ・子育て中のため	・子育て ・スポーツ ・健康づくり ・外国語 ・職業上必要な知識	・生きがいづくり ・教養の向上 ・健康維持	・『広報あづみの』 ・インターネット ・新聞 ・折込チラシ ・市のホームページ
45～64歳	・65歳以上の世代に次いで、認知度が高い	・4つの世代区分なかで、最も生涯学習に取り組んでいる人が多い	・仕事や学校が忙しい ・きっかけがない ・情報がない ・費用がかかる ・介護中のため	・健康づくり ・スポーツ ・芸術	・生きがいづくり ・健康維持 ・教養の向上	・『広報あづみの』 ・回覧板 ・新聞 ・折込チラシ ・市のホームページ
65歳以上	・4つの世代区分のなかで、最も認知度が高い	・24歳以下の世代に次いで、生涯学習に取り組んでいる人が少ない	・きっかけがない ・情報がない ・体調の問題 ・移動手段がない	・健康づくり ・安曇野の歴史や風土 ・スポーツ	・健康維持 ・生きがいづくり	・『広報あづみの』 ・回覧板 ・新聞 ・折込チラシ

注) アンケート結果の各設問の回答率を世代間で比較したときの相対的な順位や、複数回答で世代ごとに回答率の高い項目を抽出。

第4章 生涯学習の基本理念とスローガン

4.1 上位計画の目標等

生涯学習の基本理念やスローガンの策定に際し、上位計画である総合計画の体系のなかでの生涯学習に関する事項の位置付けと、教育大綱における教育指針を示します。



第2次安曇野市総合計画の体系

北アルプスの裾野に広がる安曇野の豊かな自然と向き合い、幼児期から生涯にわたり、先人が培ってきた歴史と文化を学ぶとともに誇りを持ち、明日を切り拓くたくましい力と思いやりをもった、心豊かな国際的な市民を目指す。

安曇野市教育大綱「安曇野市の教育」における教育指針

4.2 生涯学習の基本理念

これを受け本計画では、生涯学習を人や文化を育み生かし、よりよいまちづくりにもつながっていく取り組みとして捉え、その基本理念を以下のように定めました。

～ふるさと安曇野をまるごと学びの場にして生きる～

場所を問わず、性別、年齢、職業、言語、人種、思想、障がいの有無を問わず、誰もがこの豊かな自然環境に育まれた歴史・文化・風土の織りなす安曇野のフィールド全体を、「学びの場」としてまるごと生かしてほしいという想いを込めて設定

4.3 ライフステージごとの生涯学習のスローガン

この基本理念のもとに、ライフステージごとの特徴を踏まえて、各世代に向けてそれぞれにスローガンを定め、全世代に生涯学習の取り組みを広げます。

【24歳以下の世代】

『夢・未来へ 学びで新しい自分や仲間と出会おう』

夢に向かって、安曇野の未来をつくる子どもたちが、自らの可能性を広げるために、またその後の人生で共に高め合っていける仲間を見つけるために、成長の各段階で、学びを通してよき出会いを見つけてほしいという想いを込めて設定

【25～44歳の世代】

『家族も地域も みんなで楽しく学び合おう』

子育てに関わる方も多くなり、その過程で地域との関わりも増えてくるなかで、みんなで楽しく学び合うことが自分・家族・地域のためになるとの想いを込めて設定

【45～64歳の世代】

『学びでリフレッシュ！ 自分を磨き、社会に役立てよう』

家族や組織、地域における責任や役割が増してくる時期。だからこそ、学びの時間をつくり、心身のリフレッシュを図るとともに、自らを磨き、学びを深め広く社会に役立てていくことで、より充実した人生を築いてほしいという想いを込めて設定

【65歳以上の世代】

『学びながら生きる 次代の安曇野人を育もう』

子どもらが巣立ち、自身が定年を迎えるなど、時間にゆとりが生まれてくるなかで、人として学び続けることに生きる意義や価値を見出し、その学びの成果や人生の経験を後世に伝え、次代を育む先導者（安曇野人）になってほしいという想いを込めて設定

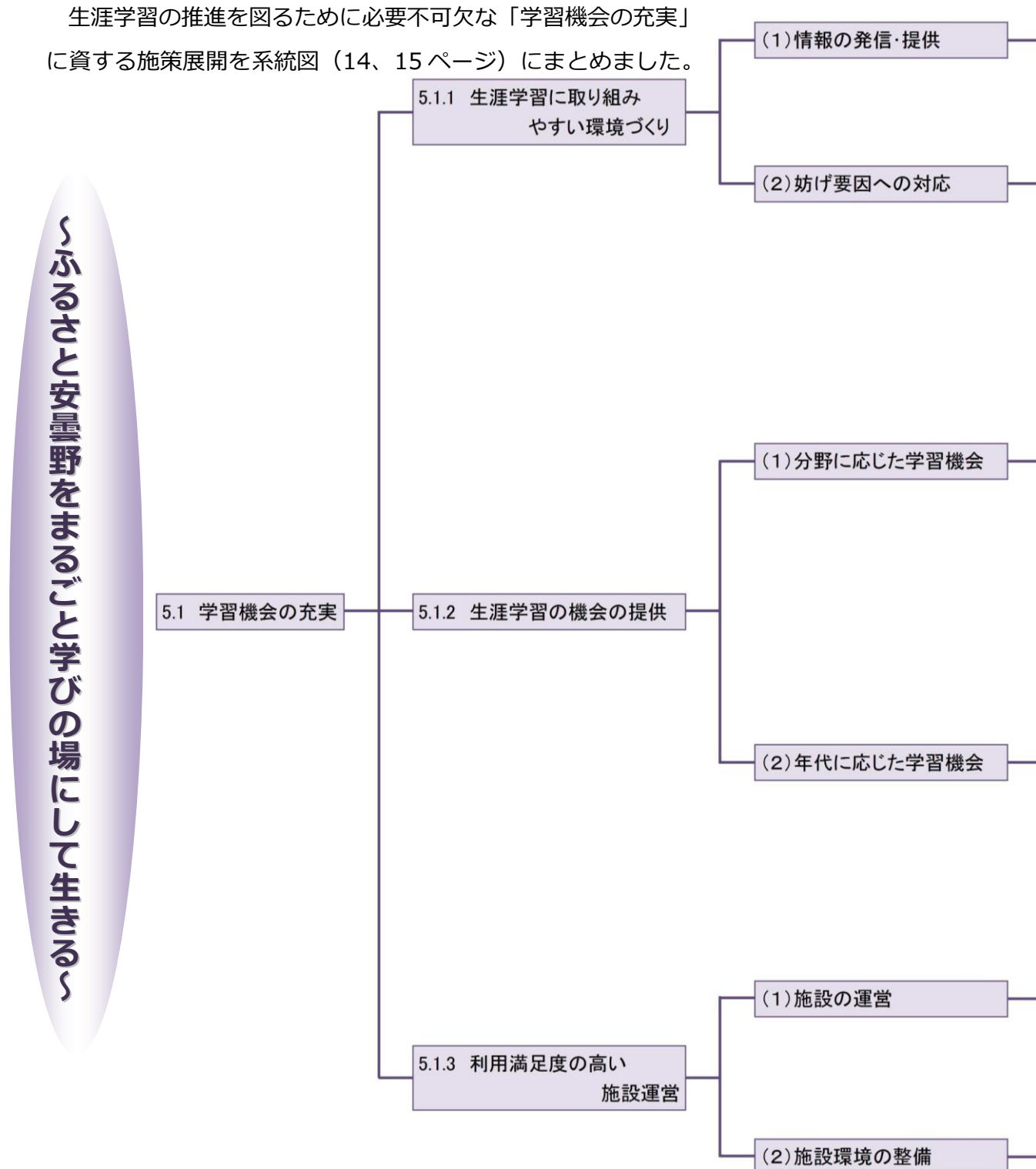
これら各世代のスローガンを念頭に、生涯学習の推進に資する施策展開を次章に示します。

第5章 生涯学習の推進に向けた施策展開

本章では今後の施策を 5.1「学習機会の充実」と 5.2「学習成果の活用」の2つに分けて、それぞれ冒頭に施策体系を図示したうえで、具体的な施策展開の内容を示します。

5.1 学習機会の充実

生涯学習の推進を図るために必要不可欠な「学習機会の充実」に資する施策展開を系統図（14、15 ページ）にまとめました。



〔施策項目〕と〔施策目標〕は 18～39 ページの間に示す施策内容と対応しています。

ライフステージごとに定めたスローガン

【24歳以下の世代】

夢・未来へ 学びで
新しい自分や仲間と
出会おう

【25～44歳の世代】

家族も地域も
みんなで楽しく
学び合おう

【45～64歳の世代】

学びでリフレッシュ！
自分を磨き、社会に
役立てよう

【65歳以上の世代】

学びながら生きる
次代の安曇野人を
育もう

〔施策項目〕

〔施策目標〕

① ワンストップ相談窓口の設置	: 市民が気軽に生涯学習についての相談をできるようにする →P18
② 冊子『生涯学習情報(仮)』の発行	: 市民が生涯学習情報を一括して入手できるようにする →P18
③ 公民館報の発行	: 市民に公民館活動の内容や成果を見てもらうことで、学習意欲を高める →P19
④ インターネットを活用した情報発信	: 市民が多様な媒体から生涯学習情報を得られるようにする →P19
⑤ SNS 上でのコミュニティの創出	: 市民同士が情報交換・交流する場(その他発表の場・人材育成の場)をつくる →P19
① 託児サービスの提供	: 子育て中でも生涯学習に参加できる環境をつくる →P21
② 講座開催日時の工夫	: 仕事で忙しい人でも生涯学習に参加できる環境をつくる →P21
③ 公民館講座の開催	: 交通手段がない人でも身近な施設で生涯学習に参加できる機会をつくる →P21
④ 「ながの電子申請サービス」の活用	: 市民が気軽に生涯学習に参加できる環境をつくる →P22
⑤ 子どもの読書活動の推進	: 子どもが自主的に読書活動を行うことができる環境整備を図る →P22
① 防災啓発活動の支援	: 市民の防災意識を高める機会を設ける →P23
② 災害時福祉避難スペース設置訓練	: 市民が災害時の要配慮者の対応方法について学ぶ機会を設ける →P24
③ 人権に関する講座の開催	: 市民が人権について学ぶ機会を設ける →P24
④ 男女共同参画フォーラム・講座の開催	: 市民が男女共同参画について学ぶ機会を設ける →P24
⑤ 環境講座の開催	: 市民が環境について学ぶ機会を設け、環境への意識を高める →P25
⑥ 多文化共生のための講座の開催	: 市民が多文化共生の地域づくりを考える機会を設ける →P25
⑦ 協働のまちづくり出前講座の開催	: 市民が生涯学習に対する意欲と市政への関心を高める機会を設ける →P25
⑧ スポーツ教室の開催	: スポーツ初心者や未経験者が運動する機会を設ける →P26
⑨ 博物館・美術館・文書館等講座の開催	: 市民が自然・考古・歴史・民俗・美術等の諸分野を学べる機会を設ける →P26
⑩ 図書館講座等の開催	: 市民のニーズに合わせた学習支援、調査研究支援のために講座、講演会等を開催する →P26
⑪ 芸術公演・講習会の開催	: 市民に多種多様な学びの場を提供するためコンサートやワークショップを開催する →P27
⑫ ICT 関連講座の開催	: 市民が IT や ICT の専門的な知識について学ぶ機会を設ける →P27
⑬ 鑑賞機会の充実	: 市民の芸術鑑賞機会の充実のため、各種展覧会・公演・講座等を実施する →P27
① 青少年体験事業の実施	: 青少年が体験活動により協調性や自立心を学ぶ機会を設ける →P29
② 博物館・美術館における親子向け事業の実施	: 親子が歴史史資料や美術品に触れられる機会を設ける 市内の公共施設等へのアウトリーチを行う →P29
③ 子育て勉強会・育児相談の実施	: 保護者が子育てに関する悩みや不安を解消するための機会を設ける →P29
④ 「おはなしかい」等の定期開催	: 親子で本に親しんでもらう機会を設ける →P30
⑤ ブックスタート事業の実施	: 親子が絵本を介して心ふれあうひとときをもつきっかけをつくる →P30
⑥ ヤングアダルト・高齢者を対象とした企画事業	: 図書館利用の少ない層を対象とした、企画展示、講座等を実施する →P30
⑦ 「朗人大学」の開催	: 幅広い分野の教養を学び、新たな仲間や生きがいづくりのきっかけをつくる →P31
⑧ 健康体操教室の開催	: 市民が健康づくりを考えるきっかけをつくる →P31
① 学芸員研修会の開催	: 学芸員が専門知識を学ぶ機会を設けることで施設利用者の満足度を高める →P36
② 図書館職員研修	: 図書館職員が専門知識を学ぶことで施設利用者の満足度を高める →P36
③ 施設連携事業の実施	: 事業を実施し施設相互の連携を向上させ、施設利用者の満足度を高める →P36
④ 常設展・出前(コンパクト)展示の実施	: 調査研究活動の成果や、収集してきた資料や情報などが、市民等の目に触れる機会を増やす →P37
⑤ 交流学習センターの利便性向上	: 施設の利便性を向上させることで利用者数を向上させる →P37
⑥ 音響照明スタッフ・レセプションの活用	: 各種スタッフ登録者の技能を生かして、利用者の満足度を高める →P37
⑦ 施設利用案内の充実	: 市民が誰でも気軽に施設を利用できるよう利用案内を充実させる →P38
① 新総合体育館の建設	: 市民が幅広いスポーツを行うための体育館を建設する →P38
② 公民館、交流学習センター等の会議室の Wi-Fi 環境拡充	: 快適なインターネット環境を提供し、新たな利用者を増やす →P39
③ 博物館・美術館の展示環境の改善	: 誰もが博物館・美術館に親しめるよう、わかりやすい展示、快適な鑑賞環境整備を行う →P39
④ 必要・十分量の図書館資料の整備	: 図書資料を適切に収集・管理・提供することで、自ら学び向上する心を育む →P39

5.1.1 生涯学習に取り組みやすい環境づくり

(1) 情報の発信・提供

<現状・課題と方向性>

生涯学習に取り組みやすい環境づくりを進めるうえで、広く市民の皆さんに生涯学習に関する情報提供することは行政に求められる最も重要な役割の一つです。

しかしながら、アンケート結果では「情報がない」の回答率が、生涯学習の妨げ要因として3番目に高く、情報の発信・提供は改善を図る必要性の高い項目といえます。とくに若い世代でこの項目の回答率は高い傾向にあります。

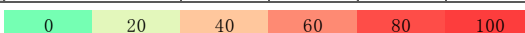
生涯学習の妨げ要因（性別・世代別の回答率）

あなたが生涯学習に取り組むことへの妨げになっていること、あるいは生涯学習に取り組めない理由があれば教えてください。

(%)

<複数回答>	全体		24歳以下の世代		25～44歳の世代		45～64歳の世代		65歳以上の世代	
	回答数	回答率	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
仕事・学校が忙しい	275	34.4	59.1	53.8	72.5	41.3	57.0	49.6	8.6	6.6
きっかけがない	205	25.6	40.9	46.2	26.1	28.8	24.8	30.4	25.8	16.2
情報がない	153	19.1	45.5	38.5	13.0	28.8	15.7	18.5	23.9	9.6
費用がかかる	123	15.4	18.2	15.4	30.4	16.3	15.7	26.7	9.2	5.4
体調の問題	112	14.0	9.1	0.0	7.2	2.9	3.3	13.3	21.5	26.3
特になし	108	13.5	13.6	0.0	7.2	6.7	12.4	8.9	22.1	18.0
仲間がいない	85	10.6	22.7	7.7	13.0	11.5	8.3	12.6	11.0	7.8
子育て中のため	63	7.9	0.0	0.0	13.0	38.5	5.8	4.4	0.0	0.6
移動手段がない	50	6.3	4.5	7.7	2.9	1.9	0.8	5.2	3.1	18.0
施設がない	45	5.6	18.2	15.4	2.9	9.6	6.6	6.7	3.1	3.0
生涯学習に興味はあるが魅力的な活動がない	45	5.6	0.0	7.7	1.4	5.8	5.0	8.1	8.6	3.6
介護中のため	43	5.4	0.0	0.0	0.0	3.8	3.3	14.1	3.1	6.6
指導者がいない	29	3.6	4.5	7.7	0.0	2.9	5.0	5.9	3.7	2.4
そもそも生涯学習に興味がない	27	3.4	4.5	7.7	2.9	1.0	1.7	4.4	3.7	4.8
その他	21	2.6	0.0	7.7	0.0	1.0	0.0	4.4	3.1	4.8
回答数	800		22	13	69	104	121	135	163	167

回答率による色分けの凡例:



※アンケート結果より

情報の発信・提供は、必要とする人に、適切な場所で、適切な手段で行うことが求められますが、近年、情報入手手段が多様化するなかで、世代や性別によってその手段が異なり、行政による現在の情報提供手段と市民が効果的だと思う情報提供手段が必ずしも整合していない状況もアンケート結果から読みとれます。

例えば、現在の情報入手手段として、全体的には『広報あづみの』、知人の紹介（口コミ）の回答率が高くなっていますが、性別又は世代によってその比率にばらつきがあり、64歳以下の世代の男性ではインターネットの比率がとくに高く、45歳以下の女性ではポスター、チラシの比率が高い傾向にあります。

また、効果的だと思う情報提供手段は、年齢層が下がるほど多様化する傾向がみられ、64歳以下の世代では市のホームページやインターネット、女性ではポスター、チラシの比率が高く、44歳以下の世代では、男性はテレビ、ラジオ、女性はフリーペーパー（無料情報誌）が比較的回答率の高い項目となっています。Facebook（フェイスブック）やTwitter（ツイッター）などのSNSは、男女とも44歳以下の世代からにわかに回答率の高くなっています。

現在の情報提供手段と効果的だと思う情報提供手段とでとくに不整合がみられるのは市のホームページで、前者は5%未満の回答率であるのに対して、後者は25%以上の回答率となっており、今後、改善・強化の必要な情報提供手段の一つとして捉えられます。

こうした現状・課題を踏まえて、生涯学習に関する情報の発信・提供の工夫を図る必要があります。

現在の情報入手手段（性別・世代別の回答率）

あなたが生涯学習に関する情報をどのような方法で入手されているか教えてください。(%)

<複数回答>	全体		24歳以下の世代		25～44歳の世代		45～64歳の世代		65歳以上の世代	
	回答数	回答率	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
『広報あつみの』	161	46.1	28.6	0.0	22.2	47.1	43.1	69.1	38.2	46.3
知人の紹介(口コミ)	136	39.0	28.6	0.0	25.9	39.2	15.5	47.1	30.9	67.2
新聞、雑誌	125	35.8	28.6	33.3	33.3	27.5	36.2	50.0	30.9	34.3
インターネット	99	28.4	57.1	33.3	59.3	31.4	50.0	26.5	16.2	6.0
ポスター、チラシ	72	20.6	14.3	33.3	7.4	39.2	19.0	25.0	11.8	17.9
回覧板	62	17.8	0.0	0.0	3.7	7.8	19.0	22.1	25.0	20.9
テレビ、ラジオ	40	11.5	14.3	0.0	7.4	9.8	6.9	13.2	10.3	17.9
その他	25	7.2	0.0	0.0	22.2	3.9	6.9	4.4	5.9	9.0
市のホームページ	17	4.9	14.3	0.0	0.0	5.9	6.9	4.4	4.4	4.5
回答数	349		7	3	27	51	58	68	68	67

効果的だと思う情報提供手段（性別・世代別および地域別・職業別の回答率）

あなたが生涯学習活動をするために必要な情報は、どのように提供されるとよい(効果的)と思いますか。(%)

<複数回答>	全体		24歳以下の世代		25～44歳の世代		45～64歳の世代		65歳以上の世代	
	回答数	回答率	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
『広報あつみの』	520	65.0	40.9	23.1	52.2	75.0	61.2	81.5	63.8	61.7
回覧板	286	35.8	13.6	23.1	24.6	30.8	36.4	41.5	39.3	40.1
新聞、折込チラシ	261	32.6	36.4	30.8	29.0	42.3	29.8	40.7	28.8	26.9
市のホームページ	209	26.1	36.4	15.4	23.2	34.6	35.5	33.3	21.5	14.4
インターネット	196	24.5	50.0	15.4	40.6	42.3	34.7	25.9	13.5	7.2
ポスター、チラシ	146	18.3	9.1	46.2	18.8	31.7	12.4	30.4	15.3	6.6
テレビ、ラジオ	140	17.5	36.4	7.7	27.5	19.2	16.5	14.8	13.5	16.8
フリーペーパー(無料情報誌)	132	16.5	22.7	38.5	18.8	33.7	16.5	18.5	10.4	7.2
FacebookやTwitterなどのSNS	68	8.5	40.9	38.5	20.3	25.0	5.0	5.2	0.6	0.0
わからない	66	8.3	0.0	0.0	11.6	2.9	6.6	5.9	9.2	13.2
その他	16	2.0	9.1	0.0	8.7	1.0	0.8	1.5	1.8	1.8
回答数	800		22	13	69	104	121	135	163	167

<複数回答>	全体		24歳以下の世代		25～44歳の世代		45～64歳の世代		65歳以上の世代	
	回答数	回答率	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
身近な生活利便施設 ^{注)}	323	40.4	50.0	46.2	44.9	65.4	46.3	54.1	24.5	21.6
図書館、交流学习センター	297	37.1	54.5	46.2	33.3	57.7	34.7	51.9	24.5	25.7
市役所	257	32.1	18.2	7.7	23.2	31.7	39.7	43.0	35.6	23.4
公民館	241	30.1	13.6	15.4	15.9	26.0	32.2	27.4	40.5	32.3
わからない	94	11.8	9.1	7.7	14.5	5.8	9.1	8.1	14.1	17.4
体育館	68	8.5	18.2	38.5	10.1	15.4	7.4	7.4	5.5	4.2
その他お住まいの身近な公共施設	67	8.4	4.5	0.0	5.8	4.8	5.8	8.1	9.8	13.8
その他	34	4.3	4.5	7.7	7.2	6.7	2.5	1.5	5.5	3.6
回答数	800		22	13	69	104	121	135	163	167

<複数回答>	豊科	穂高	三郷	堀金	明科	会社員	無職	専業主婦・主夫	パート、アルバイト
	身近な生活利便施設 ^{注)}	42.8	38.1	39.6	42.2	42.3	50.5	19.8	37.7
図書館、交流学习センター	35.6	48.6	27.8	25.0	25.4	36.6	25.8	42.1	48.6
市役所	33.3	33.0	26.4	40.6	28.2	30.4	28.6	33.3	38.5
公民館	28.8	32.7	31.9	20.3	29.6	24.2	34.6	31.6	31.2
わからない	12.6	10.5	14.6	9.4	11.3	8.8	20.3	10.5	6.4
体育館	7.2	9.9	11.1	9.4	1.4	9.8	3.8	6.1	11.9
その他お住まいの身近な公共施設	9.0	8.5	6.3	9.4	9.9	8.8	9.3	10.5	3.7
その他	5.4	4.8	2.8	3.1	2.8	4.1	3.3	4.4	1.8
回答数	222	294	144	64	71	194	182	114	109

注)スーパーマーケット、コンビニエンスストア、銀行、郵便局など

回答率による色分けの凡例: 0 20 40 60 80 100

※アンケート結果より

<施策内容>

① ワンストップ相談窓口の設置

生涯学習に関する市民からの様々な相談に対し、1か所で幅広く対応することのできる総合的な窓口を設置し、市民の生涯学習活動を支えます。

設置場所は、本庁舎や生涯学習の拠点施設を候補とし、地域単位でサテライト的な窓口の設置も検討します。また、当該窓口には生涯学習に関する資料や案内チラシを置き、情報発信拠点としても機能させます。



目 標：市民が気軽に生涯学習についての相談をできるようにする

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：生涯学習課

施策指標：案内件数

成果指標：アンケート満足度

【参照】

施策指標、成果指標の設定意図と活用については54ページ(第6章 6.2)をご参照ください。

【凡例】

ターゲットとして重視する度合いを背景の色の濃淡(3段階)で表しています。

□ < □ < □

② 冊子『生涯学習情報(仮)』の発行

生涯学習に関して、市民にとって必要かつ有益な情報を整理し、一定期間、情報の有効性を保てる内容を厳選してとりまとめた冊子『生涯学習情報(仮)』を発行します。

既存の生涯学習の活動内容や多様な市民のニーズを踏まえ、生涯学習の取り組みを喚起できるような冊子を目指します。

発行部数や発行回数は内容を具体化する段階で検討するものとし、できる限りの多くの市民の手に行き渡る配布方法を選択します。印刷物としてだけでなく、電子データにして市のホームページ等でも閲覧できるようにします。また、情報の最新性の担保とコスト面を考慮して、2版以降は電子データのみでの更新も検討します。

目 標：市民が生涯学習情報を一括して入手できるようにする

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：生涯学習課

施策指標：発行回数、情報量、発行部数

成果指標：残部率

③ 公民館報の発行

生涯学習活動の一貫である公民館活動の内容やその成果をとりまとめた公民館報を定期的に発行します。

目 標：市民に公民館活動の内容や成果を見てもらうことで、学習意欲を高める

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：生涯学習課

施策指標：認知度、情報量

成果指標：アンケート満足度

④ インターネットを活用した情報発信

『広報あづみの』や回覧板による生涯学習情報の提供を補完する手法として、インターネットを有効活用し、市のホームページによる情報提供の充実を図るとともに、SNSを用いた情報提供にも取り組み、とくに若い世代に向けた生涯学習情報の発信力の強化に努めます。

これにより、情報発信媒体の多様性を確保し、生涯学習の内容に応じて、適切かつ効果的な情報発信手段を選択します。

目 標：市民が多様な媒体から生涯学習情報を得られるようにする

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：生涯学習課

施策指標：投稿回数

成果指標：フォロワー数、いいね数



⑤ SNS 上でのコミュニティの創出

知人からの紹介いわゆる口コミによる情報拡散力に着目し、インターネット上で同様の効果を有する SNS を活用して、生涯学習に関する情報コミュニティの場をつくり、市から一方的な情報提供だけでなく、双方向の情報共有を促します。

現状でも、例えば県のシニア大学では参加者同士が SNS 上のコミュニティで日常的に情報交換を行っていることなどから、遠距離で気軽に集まることのできない仲間同士が場所を選ばず気軽に情報交換できる場として、この取り組みは若い世代に限らず、全世代に展開します。またその際、SNS 上での個人情報保護や人権の視点に配慮した運用にも努めます。

目 標：市民同士が情報交換・交流する場（その他発表の場・人材育成の場）をつくる

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：生涯学習課

施策指標：コミュニティ作成数

成果指標：交流人数

(2) 妨げ要因への対応

<現状・課題と方向性>

アンケート結果から生涯学習の推進における最も大きな課題を1つ見出すとすれば、生涯学習が「必要だと思う」方が約61%いるのに対して、過去5年間に生涯学習の取り組みを行ったことのある方が約44%に留まり、生涯学習を必要だと思いながら、取り組めていない方が少なからずいることから、この妨げ要因の解消を図ることにあります。

世代別にみると、64歳以下でとくに上記数値の差が大きく、具体的な妨げ要因として、「仕事・学校が忙しい」、「きっかけがない」、「情報がない」、「費用がかかる」、「体調の問題」が回答率の高い項目の上位に挙げられています。その他、25～44歳の世代の女性では「子育て中のため」を挙げる方の比率が突出して高く、46～64歳の世代の女性では「介護中のため」が相対的に高い比率を示しています。さらに65歳以上の女性になると、「移動手段がない」の回答率が比較的高くなっており、性別も含め、各世代特有の要因にも着目する必要があります。

また、上記の要因だけでなく、職業や言語の違い、障がいの有無なども考慮して、生涯学習の妨げ要因の解消につながる施策展開を図る必要があります。

生涯学習の必要性（性別・世代別の回答率）

あなたは、学校教育終了後も生涯にわたって学び続けることは必要だと思いますか。

(%)

<複数回答>	全体		24歳以下の世代		25～44歳の世代		45～64歳の世代		65歳以上の世代	
	回答数	回答率	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
必要だと思う	491	61.4	40.9	69.2	60.9	77.9	70.2	71.1	53.4	46.7
必要だと思わない	10	1.3	0.0	0.0	1.4	1.0	0.8	0.7	2.5	1.2
わからない	175	21.9	50.0	30.8	27.5	15.4	19.0	17.8	22.7	24.6
無回答・無効	124	15.5	9.1	0.0	10.1	5.8	9.9	10.4	21.5	27.5
回答数	800		22	13	69	104	121	135	163	167

過去5年間の生涯学習の取り組み状況（性別・世代別の回答率）

あなたはこの5年くらいの間に、生涯学習の取り組みをなされましたか。

(%)

<択一回答>	全体		24歳以下の世代		25～44歳の世代		45～64歳の世代		65歳以上の世代	
	回答数	回答率	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
はい	349	43.6	31.8	23.1	39.1	49.0	47.9	50.4	41.7	40.1
いいえ	451	56.4	68.2	76.9	60.9	51.0	52.1	49.6	58.3	59.9
回答数	800		22	13	69	104	121	135	163	167

生涯学習の妨げ要因（性別・世代別の回答率）

あなたが生涯学習に取り組むことへの妨げになっていること、あるいは生涯学習に取り組めない理由があれば教えてください。

(%)

<複数回答>	全体		24歳以下の世代		25～44歳の世代		45～64歳の世代		65歳以上の世代	
	回答数	回答率	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
仕事・学校が忙しい	275	34.4	59.1	53.8	72.5	41.3	57.0	49.6	8.6	6.6
きっかけがない	205	25.6	40.9	46.2	26.1	28.8	24.8	30.4	25.8	16.2
情報がない	153	19.1	45.5	38.5	13.0	28.8	15.7	18.5	23.9	9.6
費用がかかる	123	15.4	18.2	15.4	30.4	16.3	15.7	26.7	9.2	5.4
体調の問題	112	14.0	9.1	0.0	7.2	2.9	3.3	13.3	21.5	26.3
特になし	108	13.5	13.6	0.0	7.2	6.7	12.4	8.9	22.1	18.0
仲間がいない	85	10.6	22.7	7.7	13.0	11.5	8.3	12.6	11.0	7.8
子育て中のため	63	7.9	0.0	0.0	13.0	38.5	5.8	4.4	0.0	0.6
移動手段がない	50	6.3	4.5	7.7	2.9	1.9	0.8	5.2	3.1	18.0
施設がない	45	5.6	18.2	15.4	2.9	9.6	6.6	6.7	3.1	3.0
生涯学習に興味はあるが魅力的な活動がない	45	5.6	0.0	7.7	1.4	5.8	5.0	8.1	8.6	3.6
介護中のため	43	5.4	0.0	0.0	0.0	3.8	3.3	14.1	3.1	6.6
指導者がいない	29	3.6	4.5	7.7	0.0	2.9	5.0	5.9	3.7	2.4
そもそも生涯学習に興味がない	27	3.4	4.5	7.7	2.9	1.0	1.7	4.4	3.7	4.8
その他	21	2.6	0.0	7.7	0.0	1.0	0.0	4.4	3.1	4.8
回答数	800		22	13	69	104	121	135	163	167

回答率による色分けの凡例:

0	20	40	60	80	100
---	----	----	----	----	-----

※アンケート結果より

<施策内容>

① 託児サービスの提供

小さなお子さんをお持ちの方でも積極的に生涯学習に参加できるよう、とくに子育て世代を対象にしたテーマの講座を開催する際に、安心してかつ気軽に利用できる託児サービスの充実を図ります。

目 標：子育て中でも生涯学習に参加できる環境をつくる

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：人権男女共同参画課、子ども支援課

施策指標：設置回数、利用者数

成果指標：講座での設置回数

関連計画：男女共同参画計画



② 講座開催日時の工夫

講座の開催は、日中・平日だけでなく、夜間や土日などテーマに応じて時間帯や曜日設定を変えたり、同じテーマでも複数回開催するなどの工夫をして、仕事や家事で忙しい方がより多く生涯学習に参加できる環境づくりに努めます。

目 標：仕事で忙しい人でも生涯学習に参加できる環境をつくる

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：各講座担当課

施策指標：講座開催数、参加者数

成果指標：受講者のうち働く世代の講座参加率

③ 公民館講座の開催

参加したい講座があっても、開催場所が自宅から遠く移動手段がないため参加できないという方を念頭に、身近な5地域の公民館で開催する講座の充実を図り、自家用車を運転できない交通弱者の方が講座に参加できる機会を増やします。

目 標：交通手段がない人でも身近な施設で生涯学習に参加できる機会をつくる

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：生涯学習課、各地域課（各地域公民館）

施策指標：講座開催数、参加者数

成果指標：受講者のうち交通手段がない人の講座参加率



④ 「ながの電子申請サービス」の活用

「ながの電子申請サービス（長野県と県内の市町村が共同で提供している各種申請や届出のオンラインサービス）」では、地域や市町村の生涯学習振興や生涯学習によるまちづくりを支援する指導者養成講座等の申込みを、インターネット上の簡便な手続きで行うことができます。

今後の生涯学習の推進を担っていく世代を中心に、同サービスの存在を周知するとともに、講座への参加を促して人材育成につなげます。

目 標：市民が気軽に生涯学習に参加できる環境をつくる

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：各講座等担当課

施策指標：サービス活用数

成果指標：サービス利用人数

⑤ 子どもの読書活動の推進

地域の図書館などで、読書しやすい環境の整備や、読書の楽しさを伝える取り組みの充実を図り、子どもの自主的な読書活動を促します。

目 標：子どもが自主的に読書活動を行うことができる環境整備を図る

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：図書館交流課

施策指標：貸出冊数

成果指標：児童書貸出冊数

関連計画：図書館基本計画



5.1.2 生涯学習の機会の提供

(1) 分野に応じた学習機会

<現状・課題と方向性>

生涯学習の内容は極めて幅が広く多種多様な分野・テーマがあることから、アンケート結果などから現状における各分野・テーマの取り組み状況を踏まえて、これに応じて学習機会の提供を図る必要があります。

行政としてはとくに、「新たに学びたい分野・関心のあるテーマ」で一定の回答率を得ながらも「いま取り組んでいる生涯学習の内容」で回答率の低い内容に着目して、市民が主体的・自発的に取り組みにくい分野・テーマの学習機会の確保に努め、生涯学習の内容の幅を広げていくことが求められます。

「いま取り組んでいる生涯学習の内容」と 「新たに学びたい分野・関心のあるテーマ」との比較

<複数回答>	いま取り組んでいる生涯学習の内容		新たに学びたい分野・関心のあるテーマ	
	回答数	回答率	回答数	回答率
スポーツ	129	37.0	193	24.1
健康づくり	114	32.7	338	42.3
芸術	69	19.8	142	17.8
趣味などその他	63	18.1	87	10.9
職業上必要な知識・技能・資格	60	17.2	120	15.0
ボランティア	58	16.6	90	11.3
子育て、教育	49	14.0	102	12.8
地域づくり	43	12.3	77	9.6
パソコン、インターネット	31	8.9	118	14.8
安曇野市の歴史や風土	31	8.9	109	13.6
身近な自然環境や地域環境の保全	29	8.3	78	9.8
外国語の学習	24	6.9	106	13.3
防犯、防災	20	5.7	82	10.3
ガイドや指導者として人に伝える技術	17	4.9	37	4.6
マナー・ライフプラン	13	3.7	83	10.4
特になし	—	—	113	14.1
回答数	349 ^{注)}		800	

注) 過去5年間に生涯学習の取り組みのある人

※アンケート結果より

回答率による色分けの凡例: 0 20 40 60 80 100

<施策内容>

① 防災啓発活動の支援

大規模な地震や土砂災害、豪雨など、近年頻発化・激甚化している災害への意識の高まりを受け、生涯学習の一貫として、防災や減災に対する啓発を行う機会を設けます。

目 標：市民の防災意識を高める機会を設ける

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：危機管理課

施策指標：支援実施回数

成果指標：訓練実施回数、出前講座開催回数

関連計画：地域防災計画

② 災害時福祉避難スペース設置訓練

災害時における福祉避難スペースの設置訓練を実施し、要配慮者への対応方法を学ぶための機会を設けます。

目 標：市民が災害時の要配慮者の対応方法について学ぶ機会を設ける

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：長寿社会課

施策指標：訓練回数

成果指標：訓練参加者数

関連計画：地域福祉計画

③ 人権に関する講座の開催

人権についての固定観念やこれまでの学習方法を振り返り、学び方を工夫しながら、正しく学べる講座を開催して、一人ひとりが当事者として学び合える機会をつくります。

目 標：市民が人権について学ぶ機会を設ける

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：生涯学習課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：アンケート満足度

④ 男女共同参画フォーラム・講座の開催

市民が男女共同参画について学べる機会として、男女共同参画フォーラムや講座を開催します。

目 標：市民が男女共同参画について学ぶ機会を設ける

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：人権男女共同参画課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：講座の開催回数、アンケート満足度

関連計画：男女共同参画計画



⑤ 環境講座の開催

豊かな自然環境に恵まれた本市の特性を生かし、市民が環境や景観について学べる講座の充実を図ります。

目 標：市民が環境について学ぶ機会を設け、環境への意識を高める

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：環境課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：アンケート満足度

関連計画：環境基本計画

⑥ 多文化共生のための講座の開催

外国籍の住民や日本を訪れる外国人旅行者が増加してきていることも踏まえて、世界には多種多様な文化が存在し、それらが共生して誰もが安心して豊かに暮らせる地域づくりを推進していくことの必要性を考える講座を開催します。

目 標：市民が多文化共生の地域づくりを考える機会を設ける

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：人権男女共同参画課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：アンケート満足度

関連計画：男女共同参画計画



⑦ 協働のまちづくり出前講座の開催

市民が生涯学習に対する意欲と市政への関心を高め、生涯学習の成果を生かして協働のまちづくりにも役立てるための出前講座を開催します。

目 標：市民が生涯学習に対する意欲と市政への関心を高める機会を設ける

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：地域づくり課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：アンケート満足度

⑧ スポーツ教室の開催

スポーツの初心者や未経験者が新たにスポーツに取り組むきっかけづくりとして、様々なスポーツ教室を開催します。一方で、その指導者となる人材の育成を支援するための講座も検討します。

また、安曇野市がホームタウンとなっている松本山雅 FC の観戦や応援、ボランティア活動などを通じて、スポーツを見て、楽しみながら学べる機会の充実を図ります。

目 標：スポーツ初心者や未経験者が運動する機会を設ける

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：生涯学習課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：アンケート満足度

関連計画：スポーツ推進計画

⑨ 博物館・美術館・文書館等講座の開催

市民が自然・考古・歴史・民俗・美術等の諸分野を学べる機会として、博物館や文書館等における講座を開催します。

目 標：市民が自然・考古・歴史・民俗・美術等の諸分野を学べる機会を設ける

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：文化課

施策指標：開催回数、参加者数

成果指標：アンケート満足度

関連計画：文化振興計画

⑩ 図書館講座等の開催

学びの拠点として図書館の有効利用を促すために、市民のニーズに合わせて学習支援や調査研究支援のための講座や講演会等を開催します。

目 標：市民のニーズに合わせた学習支援、調査研究支援のために講座、講演会等を開催する

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：図書館交流課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：アンケート満足度

関連計画：図書館基本計画

⑪ 芸術公演・講習会の開催

市民が感性を磨き、知識を得て、生涯学習活動のきっかけをつかむ機会として、多種多様な芸術公演や講習会を開催します。

目 標：市民に多種多様な学びの場を提供するためコンサートやワークショップを開催する

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：図書館交流課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：アンケート満足度



⑫ ICT 関連講座の開催

日進月歩で進化し続ける IT^{巻末4}や ICT について、市民が学べる機会を設け、適切な利用や有効な活用方法を学べる機会を設けます。

目 標：市民が IT や ICT の専門的な知識について学ぶ機会を設ける

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：生涯学習課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：定員に対する参加希望者の割合、アンケート満足度



⑬ 鑑賞機会の充実

市民が様々な芸術を鑑賞できる機会の充実を図るために、各種展覧会や公演、講座等を実施します。

目 標：市民の芸術鑑賞機会の充実のため、各種の展覧会・公演・講座等を実施する

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：文化課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：アンケート満足度

関連計画：文化振興計画



(2) 年代に応じた学習機会

<現状・課題と方向性>

学習機会の提供を図るうえでは、各年代のニーズに応じて興味や関心をひく内容やテーマ設定が求められます。

アンケートで今後新たに学びたいと思う分野や関心のあるテーマをうかがった結果からは、世代や性別によって学びたいと思う分野や関心のあるテーマに違いがあることが読みとれます。

特徴的なところでは、24歳以下の世代では「スポーツ」への関心が全世代のうち最も高く、次いで「職業上必要な知識・技能・資格」への関心度が高く、いずれも年齢層があがるにつれ、その回答率が低くなっています。逆に年齢層があがるにつれて高くなっているのは「健康づくり」で、これに関連して65歳以上の世代では「特にない」の比率も高まり、生涯学習への取り組み意欲が年齢とともに低減していく傾向も読みとれます。

また性別も含めて特徴的なところでは、24歳以下の世代の男性は「パソコン、インターネット」への関心が高く、64歳以下の女性は「外国語の学習」に対する関心が比較的高い傾向がみられます。25～44歳の世代では「子育て、健康」に対する関心が高く、とくに女性は突出して回答率が高くなっています。その他、65歳以上の世代の男性では「安曇野市の歴史や風土」に対する関心度も高くなっています。

これらの特徴を踏まえ、対象を明確にして学習機会の提供を図っていく必要があります。

生涯学習で新たに学びたい分野・関心のある内容（性別・世代別の回答率）

あなたが今後、生涯学習の一つとして新たに学びたいと思う分野や関心のあるテーマがあれば教えてください。

(%)

<複数回答>	全体		24歳以下の世代		25～44歳の世代		45～64歳の世代		65歳以上の世代	
	回答数	回答率	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
健康づくり	338	42.3	27.3	23.1	27.5	33.7	38.8	50.4	47.2	47.9
スポーツ	193	24.1	63.6	61.5	27.5	40.4	31.4	19.3	20.2	7.8
芸術	142	17.8	9.1	30.8	18.8	29.8	17.4	26.7	12.3	9.0
職業上必要な知識・技能・資格	120	15.0	40.9	30.8	30.4	30.8	19.0	13.3	4.9	3.0
パソコン、インターネット	118	14.8	31.8	0.0	14.5	18.3	14.9	19.3	12.9	10.2
特にない	113	14.1	9.1	7.7	13.0	5.8	6.6	8.1	17.8	28.1
安曇野市の歴史や風土	109	13.6	9.1	0.0	13.0	9.6	14.9	14.8	20.2	10.2
外国語の学習	106	13.3	13.6	30.8	17.4	32.7	9.1	20.7	3.1	4.8
子育て、教育	102	12.8	18.2	7.7	27.5	41.3	10.7	10.4	1.8	3.0
ボランティア	90	11.3	13.6	7.7	4.3	14.4	12.4	16.3	8.6	10.2
趣味などその他	87	10.9	0.0	15.4	7.2	6.7	13.2	19.3	8.6	9.6
マナー・ライフプラン	83	10.4	13.6	7.7	17.4	17.3	14.0	13.3	3.7	4.8
防犯、防災	82	10.3	9.1	15.4	14.5	11.5	11.6	10.4	11.0	6.0
身近な自然環境や地域環境の保全	78	9.8	9.1	7.7	5.8	13.5	14.9	8.9	11.0	5.4
地域づくり	77	9.6	9.1	0.0	2.9	8.7	15.7	8.9	12.9	7.2
ガイドや指導者として人に伝える技術	37	4.6	13.6	0.0	7.2	5.8	6.6	6.7	1.8	1.8
回答数	800		22	13	69	104	121	135	163	167

回答率による色分けの凡例:

0	20	40	60	80	100
---	----	----	----	----	-----

※アンケート結果より

<施策内容>

① 青少年体験事業の実施

青少年が体験活動を通じて、協調性や自立心を学べる機会として、青少年体験事業を実施します。

目 標：青少年が体験活動により協調性や自立心を学ぶ機会を設ける

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：生涯学習課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：アンケート満足度

② 博物館・美術館における親子向け事業の実施

親子で参加できるイベントとして、博物館や美術館で歴史資料^{巻末7}や美術品に見て・触れて・体験できる機会を設け、市内の公共施設の利用価値や楽しむための手助けにつながる事業を展開します。

目 標：親子が歴史資料や美術品に触れられる機会を設ける

市内の公共施設等へのアウトリーチ^{巻末5}を行う

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：文化課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：アンケート満足度

関連計画：文化振興計画

③ 子育て勉強会・育児相談の実施

子育て中の保護者の悩みを共有し、不安の解消を図るとともに、よりよい子育てをみんなで考えていく機会として、子育て勉強会や育児相談を実施します。

目 標：保護者が子育てに関する悩みや不安を解消するための機会を設ける

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：生涯学習課、健康推進課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：アンケート満足度



④ 「おはなしかい」等の定期開催

親子で本に親しんでもらう機会として「おはなしかい」等を定期的で開催します。

目 標：親子で本に親しんでもらう機会を設ける

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：図書館交流課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：アンケート満足度

関連計画：図書館基本計画

⑤ ブックスタート事業の実施

親子が絵本を介して心ふれあう機会をつくとともに、子どもが本に親しむきっかけをつくるために、親子で参加できる読み聞かせ講座や教室の開催など、ブックスタート事業を実施します。

目 標：親子が絵本を介して心ふれあうひとときをもつきっかけをつくる

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：図書館交流課

施策指標：図書配布率

成果指標：子どもの読書率、利用者満足度

関連計画：図書館基本計画



⑥ ヤングアダルト・高齢者を対象とした企画事業

現状において図書館利用の少ないヤングアダルトや高齢者を対象に、企画展や講座等を実施して図書館利用を促し、生涯学習のきっかけをつくります。

目 標：図書館利用の少ない層を対象とした、企画展示、講座等を実施する

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：図書館交流課

施策指標：図書貸出数

成果指標：子どもの読書率、利用者満足度

関連計画：図書館基本計画

⑦ 「朗人大学」の開催

学びを通して仲間をつくりながら、幅広い分野の知識や技術などを身に付けられる場として、年間で受講できる「朗人大学」を開催します。

目 標：幅広い分野の教養を学び、新たな仲間や生きがいつくりのきっかけをつくる

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：長寿社会課

施策指標：新規受講者数、開催数

成果指標：アンケート満足度

関連計画：老人福祉計画及び介護事業計画

⑧ 健康体操教室の開催

市民に健康づくりの取り組みを促し、健康づくりについて考えるきっかけをつくるために、健康体操教室を開催します。

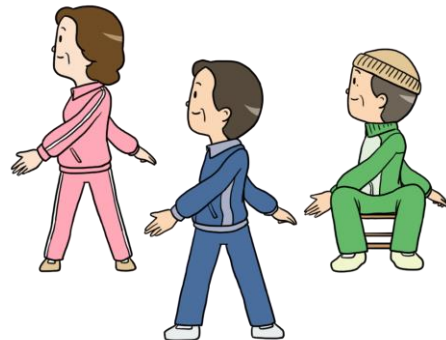
目 標：市民が健康づくりを考えるきっかけをつくる

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：健康推進課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：アンケート満足度



5.1.3 利用満足度の高い施設運営

(1) 施設の運営

<現状・課題と方向性>

市民が生涯学習を行っている施設には様々な種類があります。アンケート結果をもとに主な施設を利用率の高い順に並べてみると右表のとおり、公民館、図書館、体育館、交流学習センター、運動場・グラウンド、その他施設、美術館、公園、博物館・資料館の順になっています。これらのうち、その他施設と公園を除く施設について、平成 21 年度から平成 27 年度までの利用者数を 33 ページ～35 ページにそれぞれ図表に整理しました。

この間、一部施設では改修や新築の工事があり、一部年度で利用者数に大きな増減が生じていますが、これらの要素を除くと、ここ数年で際立って大きな増加を示している施設はほとんどありません。

また、アンケート結果から利用する施設の所在地を分析してみると、ほとんどの施設はそれぞれの居住地域内にある施設が多く利用されています。ただし、美術館と博物館・資料館については、居住地域内の施設利用率が極めて低く、美術館については、安曇野市外の施設利用率が最も高くなっています。

これらの現状を踏まえると、運営上の工夫により、既存の施設の満足度を高めていく余地は

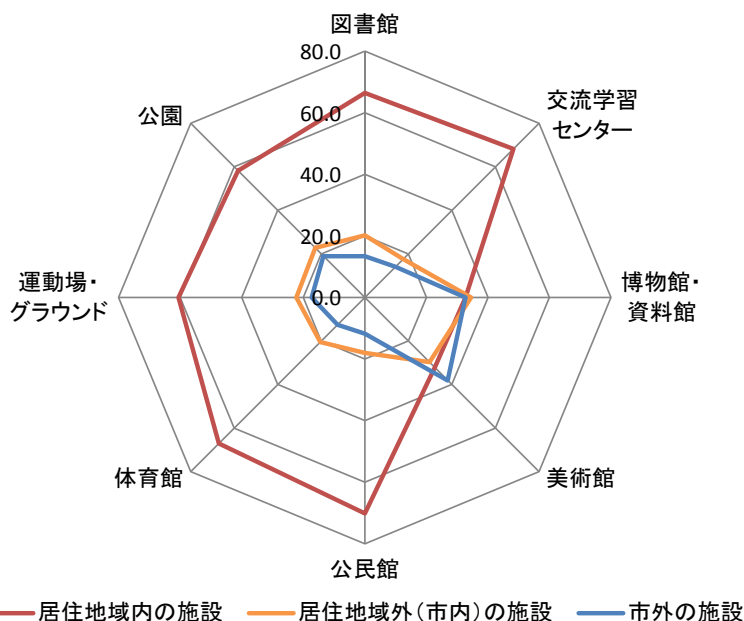
十分にあるものと考えられ、各施設に関わる人材育成の面も含め、利用者に提供するサービスの質を高めて、生涯学習の場として利用者の増加につながる施策展開が求められます。

生涯学習でよく利用する施設（再掲）

次の施設うち、あなたが生涯学習の場としてよく利用する施設があればお選びください。

〈複数回答〉	回答数	回答率(%)
公民館	145	41.5
図書館	121	34.7
体育館	81	23.2
交流学習センター	79	22.6
運動場・グラウンド	67	19.2
その他施設	61	17.5
美術館	59	16.9
公園	58	16.6
博物館・資料館	42	12.0

※アンケート結果より



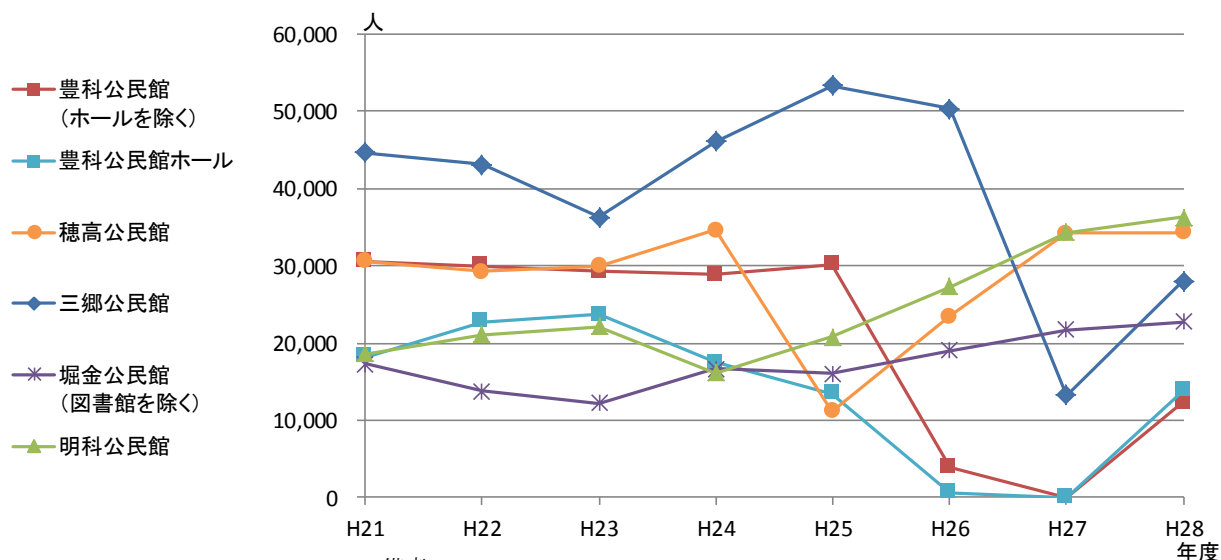
※アンケート結果より

生涯学習でよく利用する施設（所在地別の回答率）

公民館の利用者数の推移

(年度/人)

施設名	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
豊科公民館(ホールを除く)	30,628	30,000	29,265	28,849	30,181	3,979	-	12,264
豊科公民館ホール	18,232	22,728	23,681	17,480	13,398	585	-	13,822
穂高公民館	30,624	29,254	30,002	34,638	11,134	23,500	34,174	34,355
三郷公民館	44,631	43,138	36,263	46,073	53,298	50,318	13,238	27,997
堀金公民館(図書館を除く)	17,248	13,770	12,168	16,678	16,050	18,984	21,664	22,784
明科公民館	18,657	21,066	22,108	16,170	20,733	27,267	34,310	36,310
合計	160,020	159,956	153,487	159,888	144,794	124,633	103,386	147,532



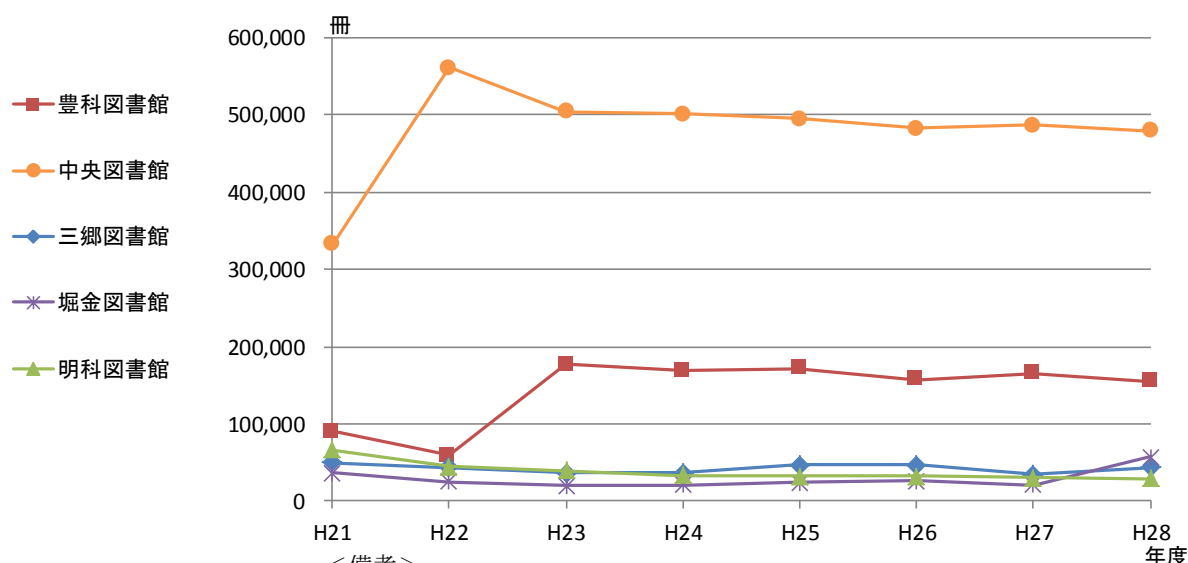
<備考>

- ・豊科公民館ホール H26-27:耐震補強・大規模改修工事
- ・穂高公民館 H25-26:改修工事
- ・三郷公民館 H27:改修工事

図書館の貸出冊数の推移

(年度/冊)

施設名	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
豊科図書館	89,576	59,413	176,761	168,123	172,067	157,437	165,752	155,613
中央図書館	333,160	561,364	504,721	501,213	494,884	482,270	486,420	479,103
三郷図書館	49,804	43,389	36,663	36,699	46,261	46,533	34,443	43,824
堀金図書館	36,441	25,251	19,424	21,274	23,728	25,541	21,080	56,823
明科図書館	66,341	45,019	39,032	33,194	31,745	31,989	29,685	28,948
合計	575,322	734,436	776,601	760,503	768,685	743,770	737,380	764,311



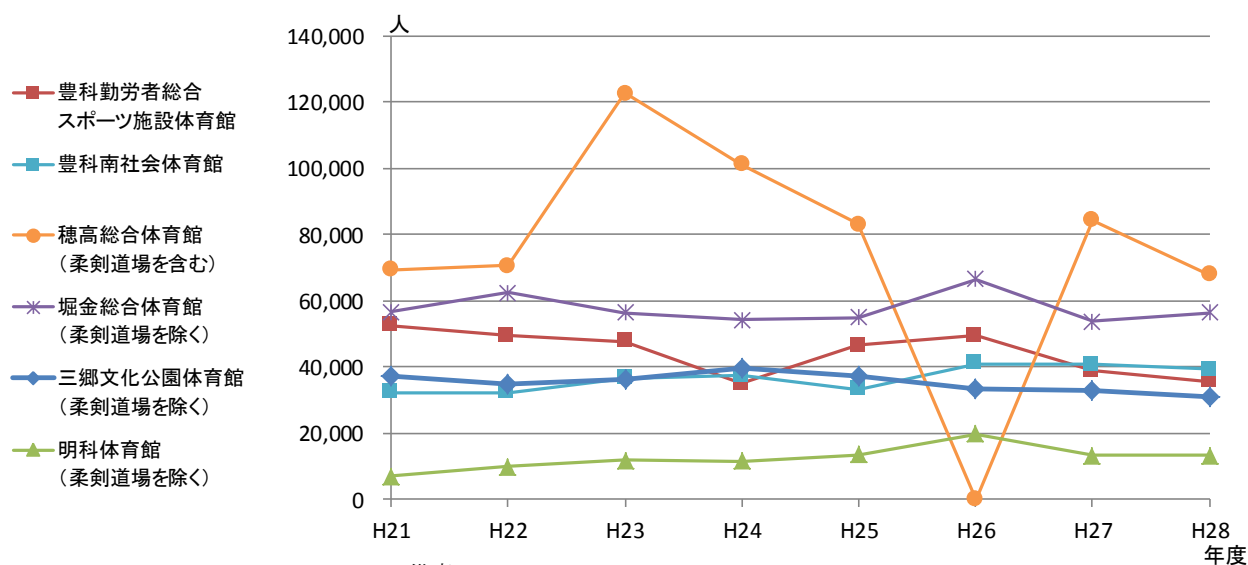
<備考>

- ・豊科図書館(「きぼう」に併設) H23.2月:開館
- ・中央図書館(「みらい」に併設) H21.9月:開館
- ・堀金図書館 H28.4月:堀金支所2階に移転

体育館の利用者数の推移

(年度/人)

施設名	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
豊科勤労者総合スポーツ施設体育館	52,542	49,421	47,683	34,940	46,449	49,550	38,880	35,663
豊科南社会体育館	32,356	32,356	36,684	37,393	33,362	40,930	40,814	39,268
穂高総合体育館(柔剣道場を含む)	69,391	70,683	122,698	101,417	83,160	-	84,360	68,098
堀金総合体育館(柔剣道場を除く)	56,629	62,543	56,373	54,179	55,059	66,678	53,776	56,536
三郷文化公園体育館(柔剣道場を除く)	37,252	34,854	36,228	39,688	37,266	33,284	33,124	31,049
明科体育館(柔剣道場を除く)	6,973	9,913	11,884	11,580	13,572	19,906	13,257	13,178
合計	255,143	259,770	311,550	279,197	268,868	210,348	264,211	243,792



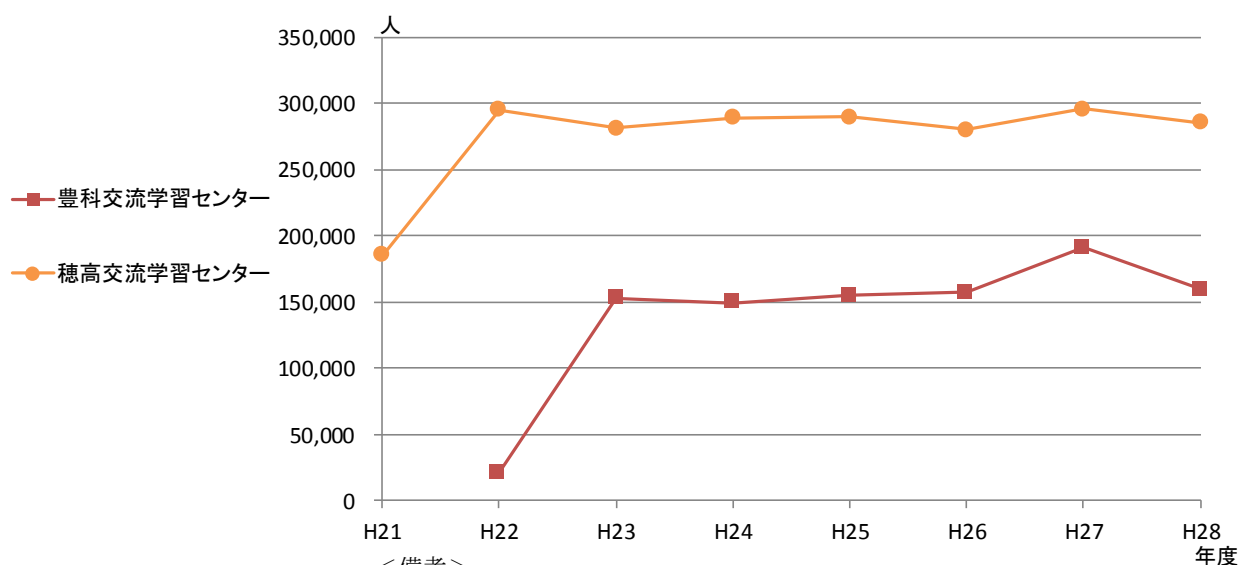
<備考>

・穂高総合体育館 H26:耐震改修工事

交流学习センターの利用者数の推移

(年度/人)

施設名	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
豊科交流学习センター		21,461	153,096	149,515	154,988	157,568	191,429	159,749
穂高交流学习センター	185,600	295,339	281,361	289,697	289,775	280,109	295,901	285,998
合計	185,600	295,339	281,361	289,697	289,775	280,109	295,901	285,998



<備考>

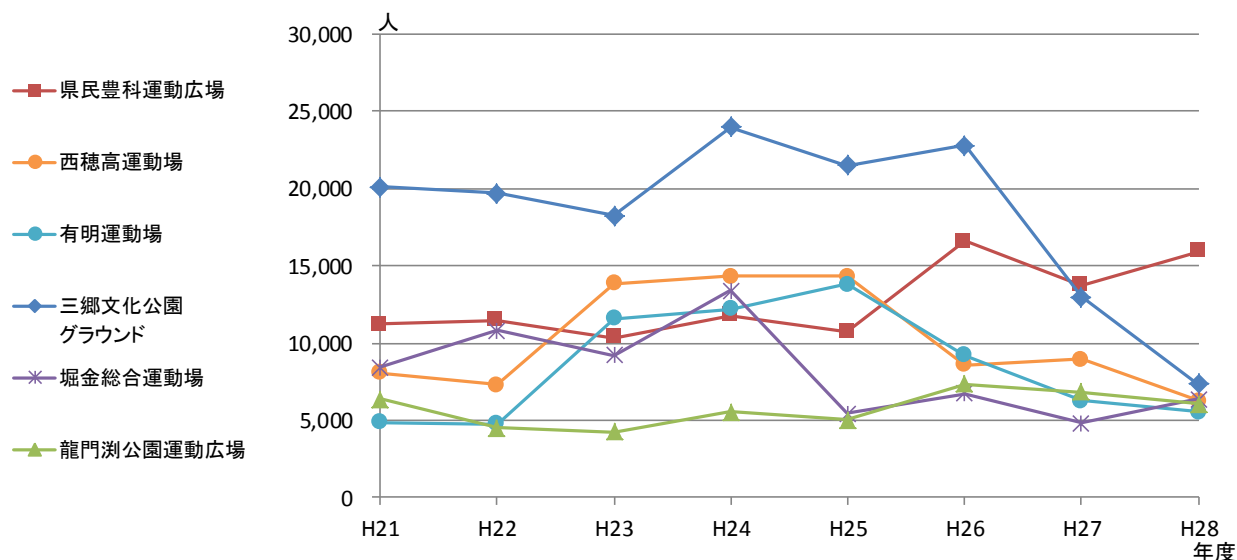
・豊科交流学习センター(「きぼう」) H23.2月:開館

・穂高交流学习センター(「みらい」) H21.9月:開館

運動場・グラウンドの利用者数の推移

(年度/人)

施設名	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
県民豊科運動広場	11,230	11,460	10,361	11,774	10,710	16,568	13,775	15,923
西穂高運動場	8,067	7,316	13,862	14,329	14,316	8,603	8,967	6,258
有明運動場	4,853	4,775	11,590	12,190	13,780	9,180	6,244	5,549
三郷文化公園グラウンド	20,107	19,680	18,238	24,003	21,518	22,802	12,996	7,335
堀金総合運動場	8,441	10,818	9,200	13,408	5,414	6,745	4,787	6,354
龍門渚公園運動広場	6,385	4,504	4,261	5,535	5,030	7,323	6,804	6,028
合計	59,083	58,553	67,512	81,239	70,768	71,221	53,573	47,447



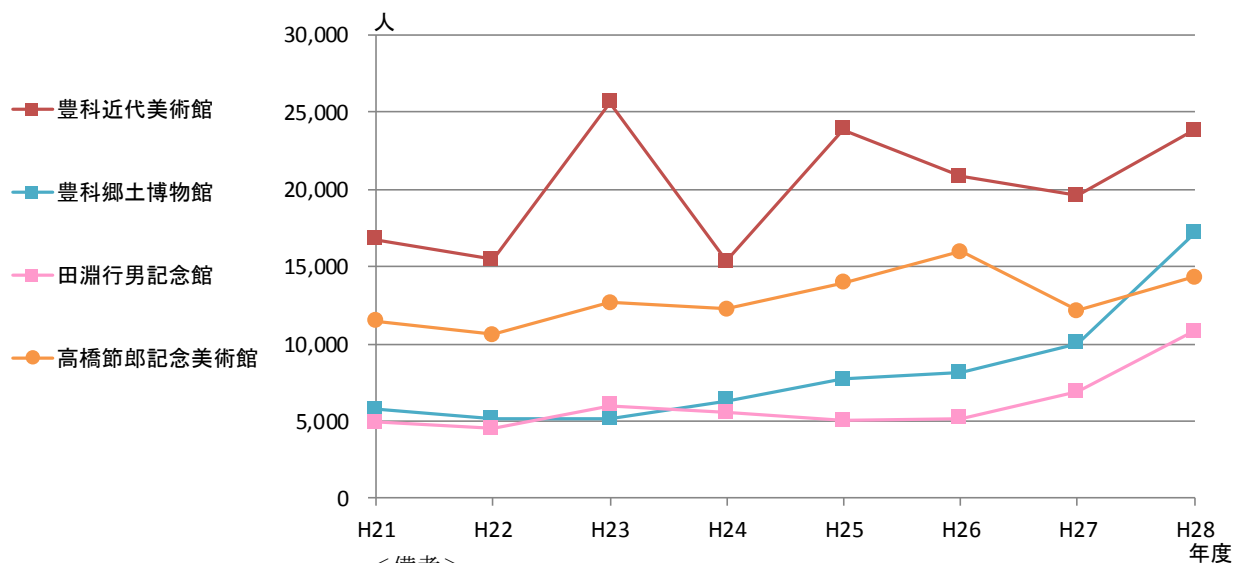
<備考>

・県民豊科運動広場 H24-25: 拡張改修工事(H25.5: オープン)

美術館・博物館の利用者数の推移

(年度/人)

施設名	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
豊科近代美術館	16,726	15,436	25,650	15,377	23,872	20,805	19,607	23,826
豊科郷土博物館	5,752	5,105	5,109	6,333	7,688	8,118	10,016	17,149
田淵行男記念館	4,912	4,518	6,022	5,539	5,038	5,195	6,879	10,790
高橋節郎記念美術館	11,497	10,607	12,651	12,233	13,978	15,970	12,153	14,319
合計	38,887	35,666	49,432	39,482	50,576	50,088	48,655	66,084



<備考>

・豊科近代美術館の利用者の増減は企画展の内容が大きく影響しているものと推察される。

<施策内容>

① 学芸員研修会の開催

学芸員が専門的な知識を深めるための研修会を開催し、施設利用者の満足度の向上につなげます。

目 標：学芸員が専門知識を学ぶ機会を設けることで施設利用者の満足度を高める

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：文化課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：施設利用者満足度

関連計画：文化振興計画

② 図書館職員研修

図書館職員が専門的な知識を深めるための研修を行い、施設利用者の満足度の向上につなげ、生涯学習のサポーターとしての役割を向上させます。

目 標：図書館職員が専門知識を学ぶことで施設利用者の満足度を高める

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：図書館交流課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：施設利用者満足度

関連計画：図書館基本計画



③ 施設連携事業の実施

施設単体での機能の充実を図るだけでなく、設備の整っている公民館を中核にして、市内にある多種多様な施設が一つのテーマで連携して実施する事業を通じて、施設相互の連携向上を図り、施設利用者の増加と満足度の向上を図ります。

目 標：事業を実施し施設相互の連携を向上させ、施設利用者の満足度を高める

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：文化課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：施設利用者満足度、施設利用者増加率

関連計画：文化振興計画

④ 常設展・出前（コンパクト）展示の実施

調査研究活動の成果や、収集してきた資料・情報等が市民をはじめとする多くの人々の目に触れられるよう、常設展やコンパクトなかたちでの出前展示を実施し、生涯学習の意欲向上につなげます。

目 標：調査研究活動の成果や、収集してきた資料や情報などが、市民等の目に触れる機会を増やす

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：文化課

施策指標：開催回数、参加者数

成果指標：開催延べ人数

関連計画：文化振興計画

⑤ 交流学習センターの利便性向上

生涯学習の中核施設となる交流学習センターのさらなる利便性の向上を図るために、利用者のニーズを随時把握しながら、改善に努めます。

また、施設全体をコーディネートできる人材育成に努めます。

目 標：施設の利便性を向上させることで利用者数を向上させる

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：図書館交流課

施策指標：利便性向上のための取り組み数

成果指標：施設利用者満足度、施設利用者増加率

⑥ 音響照明スタッフ・レセプションニストの活用

講座や講演会の開催に際し、参加者の満足度を高め、学びの意欲向上につながるよう、音響照明スタッフやレセプションニスト^{巻末6}など各種スタッフ登録者の技能を生かして、快適な環境をつくり出し、質の高い応対サービスの提供を図ります。

目 標：各種スタッフ登録者の技能を生かして、利用者の満足度を高める

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：図書館交流課

施策指標：登録者の活用延回数

成果指標：施設利用者満足度



⑦ 施設利用案内の充実

生涯学習活動の場となる市内の様々な施設の場所（地図）、アクセス方法、駐車場の位置・収容可能台数、利用可能な曜日・時間帯、利用料金その他利用に際しての条件等、施設利用に関する案内情報の充実を図り、利用者が一目でわかりやすいような情報提供に努めます。

また、市民からの要望等を踏まえ、ホームページなどの案内をより見やすく、わかりやすく改善します。

目 標：市民が誰でも気軽に施設を利用できるよう利用案内を充実させる

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：生涯学習課

施策指標：実施数

成果指標：施設利用者増加率



(2) 施設環境の整備

<現状・課題と方向性>

この10年間で生涯学習の場となる施設の新設・改修はかなり進んできましたが、利用者の満足度をより一層高めていくためには、生涯学習として関心の高い分野や、現在の施設の利用状況、ICTの進展など取り巻く環境の変化等を踏まえて、施設の新設も含め、展示内容や設備の改善、資料の充実など施設環境の整備に努めていく必要があります。

<施策内容>

① 新総合体育館の建設

安曇野市における新たなスポーツ活動の拠点となる新総合体育館の建設を進め、開館後の利用を広く市民に促し、スポーツの取り組みの拡充を図ります。

目 標：市民が幅広いスポーツを行うための体育館を建設する

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：生涯学習課

施策指標：施設利用者数

成果指標：施設利用者満足度

関連計画：スポーツ推進計画



② 公民館、交流学習センター等の会議室のWi-Fi環境拡充

各地域の公民館や交流学習センターなど、生涯学習の拠点施設の会議室におけるWi-Fi（公衆無線LAN）^{巻末8}設備を充実させ、リアルタイムで快適に情報通信できる環境を整えることによって、生涯学習の充実と現場からの生涯学習情報の発信機能の向上を図ります。

目 標：快適なインターネット環境を提供し、新たな利用者を増やす

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：生涯学習課、図書館交流課

施策指標：施設カバー率、接続回数（ログ）

成果指標：施設利用者増加率

③ 博物館・美術館の展示環境の改善

市内にある既存の博物館や美術館における常設展示内容を工夫するなど、わかりやすい展示に向けて継続的な改善を図るとともに、快適な鑑賞環境を整え、市民が学術・芸術・文化に親しめるよう努めます。

目 標：誰もが博物館・美術館に親しめるよう、わかりやすい展示、快適な鑑賞環境整備を行う

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：文化課

施策指標：アンケート満足度

成果指標：対象年齢及び利用者全体の増加率

関連計画：文化振興計画

④ 必要・十分な量の図書館資料の整備

市民が学ぶ喜びを味わい、学びの楽しさを知り、学びを深めることができる最も身近な施設である図書館の資料の充実に努め、必要・十分な量の図書館資料の整備に努めます。

目 標：図書資料を適切に収集・管理・提供することで、自ら学び向上する心を育む

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：図書館交流課

施策指標：人口一人当たり貸出蔵書数、貸出冊数

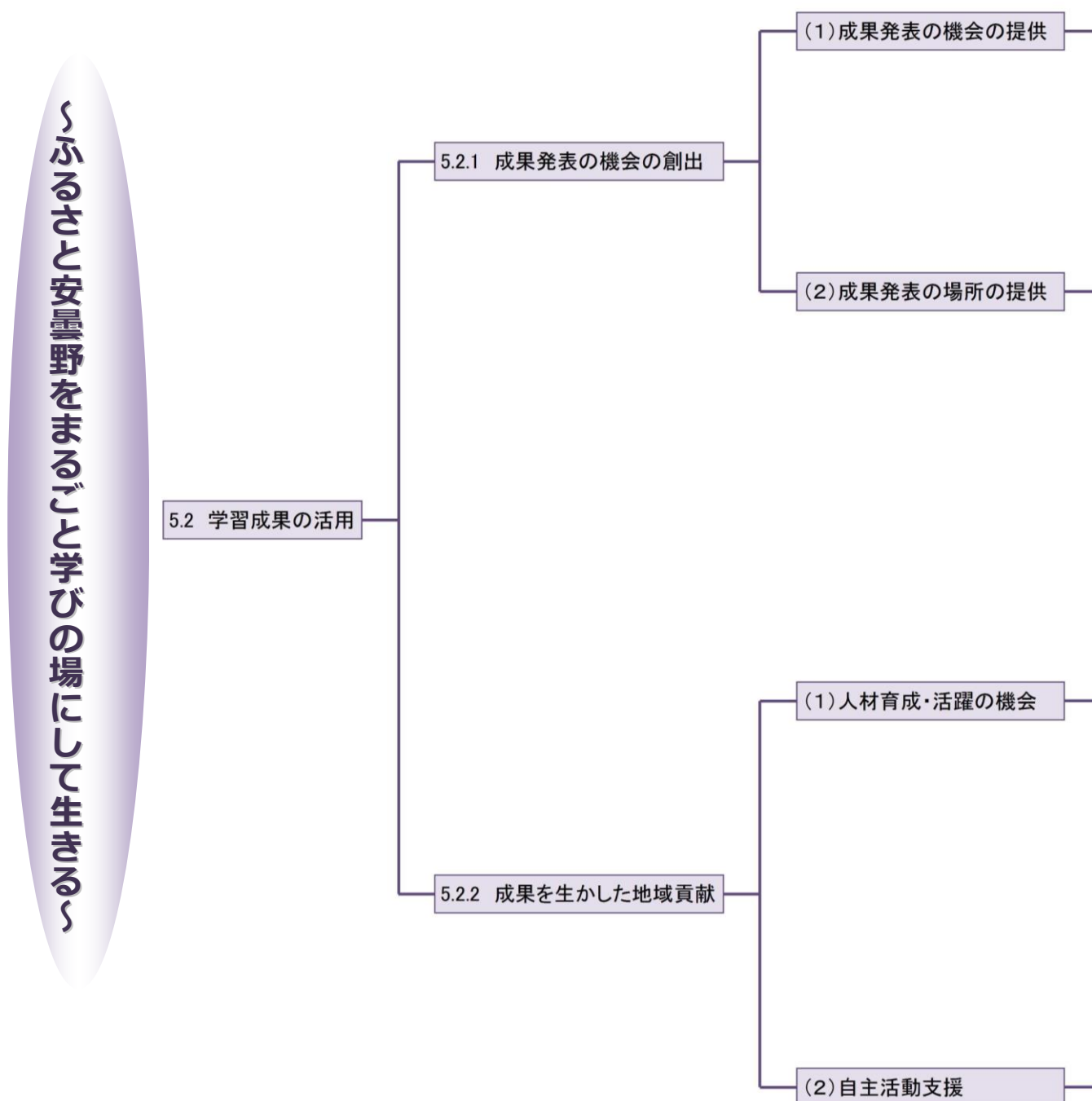
成果指標：市民の読書率、施設利用者満足度

関連計画：図書館基本計画



5.2 学習成果の活用

「学習成果の活用」についての施策展開を系統図（40、41 ページ）にまとめました。生涯学習は学んで終わりではなく、一人ひとりがその学びの成果を生かすことが重要だと考えています。



〔施策項目〕と〔施策目標〕は42～51 ページの間に示す施策内容と対応しています。

ライフステージごとに定めたスローガン

【24歳以下の世代】

夢・未来へ 学びで
新しい自分や仲間と
出会おう

【25～44歳の世代】

家族も地域も
みんなで楽しく
学び合おう

【45～64歳の世代】

学びでリフレッシュ！
自分を磨き、社会に
役立てよう

【65歳以上の世代】

学びながら生きる
次代の安曇野人を
育もう

〔施策項目〕

〔施策目標〕

① 環境フェアの開催	:環境活動団体が日頃の取り組みの成果を広く発信し、交流する場を設け、活動意欲を高める 来場者が環境フェアでの体験などにより環境への意識を高める →P42
② こども文化祭の開催	:青少年が日頃の活動の成果を発表し同世代と交流する場を設け、活動意欲を高める →P43
③ 市民スポーツ祭の開催	:市民が日頃のスポーツ活動の成果を競う場を設けることで、活動意欲を高める →P43
④ 新進音楽家公開演奏会の開催	:新進音楽家が技術を競う場と発表の場を設けることで、活動意欲を高める →P43
⑤ 地域文化祭の開催	:市民が日頃の成果を多くの人に見てもらう場を設けることで、活動意欲を高める →P44
⑥ 公募展の開催	:市民が日頃の成果を多くの人に見てもらう場を設けることで、活動意欲を高める →P44
⑦ 機関誌等の発行	:市民が日頃の成果を多くの人に見てもらう機会を設けることで、活動意欲を高める →P44
① 貸スペースの稼働率の向上	:市民が日頃の成果を見てもらう場所を提供することで、活動意欲を高める →P45
② 発表の場としてのホールの活用	:交流学习センターや公民館ホールを発表の場として市民に提供し、活動意欲を高める →P45
① 自主防災会長・自主防災リーダー研修会の開催	:地域の自主防災組織で活躍できるリーダーを育てる →P47
② ジュニア・リーダー養成講座の開催	:大人と子どもの架け橋となり、地域で活躍できる子どもを育成する →P47
③ 青少年スポーツ指導者講習会の開催	:スポーツ指導者を育成する →P47
④ 読み聞かせボランティアの育成	:読み聞かせのボランティアを育成する →P48
⑤ 図書館ボランティア研修会の開催	:図書館ボランティアの知識を深める研修会を開催する →P48
⑥ 安曇野市コミュニティスクール事業の実施	:学校活動を支援する者をボランティアとして登録し、学校の要請に応じ活用する →P48
⑦ スポーツマイスター制度(仮称)の実施	:技能を持つ者をスポーツマイスターとして登録し、活用する →P49
⑧ リーダーバンク制度の活用	:地域に関する知識や技能を持つ者を登録し、活用する →P49
⑨ 健康づくり推進員の活動拡充	:健康づくり推進員が地域において活動する →P49
⑩ 手話奉仕員養成講座の開催	:日常会話に必要な手話技術を習得するための手話奉仕員の養成講座を開催する →P50
⑪ 日赤奉仕団活動に伴う訓練、講習会等の開催	:災害時に奉仕活動ができるリーダーを育てる →P50
① 自主サークル設立支援	:市民が継続的に自主活動できるように支援する →P51
② 市民活動サポートセンターの充実	:市民活動を支援・促進し、協働を推進する →P51
③ 図書館ボランティアの主体的な活動	:図書館ボランティアが主体的に事業を実施する →P51

5.2.1 成果発表の機会の創出

(1) 成果発表の機会の提供

<現状・課題と方向性>

生涯学習には多種多様な活動があるなかで、それぞれに活動する市民や団体が必ずしもその成果を発表する機会に恵まれているとはいえないのが現状です。

生涯学習は他の人にその成果を定期的に見てもらふことで、活動継続のモチベーションや活動を通じて培われる資質・能力の向上にもつながります。またそうした発表の場で、同じ内容を学ぶ者同士が一堂に会し、交流が生まれることにより、有益な情報の共有や仲間づくりにもつながります。さらにはそうした発表の場に観賞のために訪れた参加者が、その活動に取り組むきっかけにもなることも期待できます。

必ずしも大規模な発表の場あるいはそのための発表の場でなくても、多くの人々が集まる既存のイベントなどとタイアップして、様々な生涯学習の活動成果を発表できる機会を積極的に作り出し、活動意欲の向上につなげていく必要があります。

<施策内容>

① 環境フェアの開催

環境活動団体が日頃の取り組みの成果を広く発信し、互いに交流する場になっている「安曇野環境フェア」の開催を継続して、当該団体の活動意欲の向上を図るとともに、来訪者の環境に対する意識を高めます。

目 標：環境活動団体が日頃の取り組みの成果を広く発信し、交流する場を設け、活動意欲を高める

来場者が環境フェアでの体験などにより環境への意識を高める

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：環境課

施策指標：参加団体数、来場者数

成果指標：参加者出展者アンケート、来場者アンケートの満足度

関連計画：環境基本計画



② こども文化祭の開催

青少年が日頃の活動の成果を発表し、同世代と出会う場にもなっている「安曇野市こども文化祭」の開催を継続して、参加者の活動意欲の向上と、学校や地域、年齢の枠組みを超えてつながる仲間づくりを促進します。

目 標：青少年が日頃の活動の成果を発表し同世代と交流する場を設け、活動意欲を高める

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：生涯学習課

施策指標：出演団体、参加者数、来場者数

成果指標：参加者来場者アンケートの満足度

③ 市民スポーツ祭の開催

市民が日頃のスポーツ活動の成果を競い合う場となっている「安曇野市民スポーツ祭」の開催を継続し、参加者の活動意欲の向上とスポーツ活動の推進を図ります。

目 標：市民が日頃のスポーツ活動の成果を競う場を設けることで、活動意欲を高める

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：生涯学習課

施策指標：種目別競技会の開催数、参加者数

成果指標：競技会の記録、参加者アンケートの満足度

関連計画：スポーツ推進計画

④ 新進音楽家公開演奏会の開催

新進の音楽家が技量を競い合い、発表する場になっている「あづみの新進音楽家公開オーディション」の開催を継続して、参加者の活動意欲の向上を図ります。

目 標：新進音楽家が技術を競う場と発表の場を設けることで、活動意欲を高める

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：図書館交流課

施策指標：演奏会参加者数

成果指標：選出者の市主催自主企画公演依頼回数



⑤ 地域文化祭の開催

各地域で行っている文化祭の開催を継続し、市民の日頃の文化活動の成果を多くの人に見てもらう場を設けることで、活動に取り組む人々の参加意欲の向上を図ります。

また現在、地域単位で行っている文化祭を統合し、市全体で開催できる可能性についても検討します。

目 標：市民が日頃の成果を多くの人に見てもらう場を設けることで、活動意欲を高める

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：生涯学習課、地域課

施策指標：出品数、来場者数

成果指標：来場者アンケートの満足度



⑥ 公募展の開催

多彩な生涯学習の成果を多くの人々に見てもらえる場として、様々なテーマで開催する公募展を継続し、それぞれの活動意欲の向上を図ります。

目 標：市民が日頃の成果を多くの人に見てもらう場を設けることで、活動意欲を高める

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：文化課

施策指標：開催数、来場者数、応募者数

成果指標：来場者アンケートの満足度

関連計画：文化振興計画

⑦ 機関誌等の発行

市民の日頃の成果を紹介する機関誌等の発行を促し、多くの人々に見てもらえることで、活動意欲の向上を図ります。

また、新聞やラジオ等のメディアを通じて活動を発信できる機会の確保に努めます。

目 標：市民が日頃の成果を多くの人に見てもらう機会を設けることで、活動意欲を高める

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：文化課

施策指標：発行部数

成果指標：残数

関連計画：文化振興計画

(2) 成果発表の場所の提供

<現状・課題と方向性>

成果発表の機会の提供で述べた現状・課題と方向性と同様に、成果発表の場所の提供もまた重要になります。市内にある屋内外の様々な公共施設や公共的な空間の有効活用を促し、成果発表の場所として積極的に利用してもらうことによって、活動意欲の向上につなげていくことが求められます。

<施策内容>

① 貸スペースの稼働率の向上

市有施設の有効活用を図り、市民の日頃の成果を見てもらう場としての利用を促し、活動意欲の向上につなげます。

目 標：市民が日頃の成果を見てもらう場所を提供することで、活動意欲を高める

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：文化課

施策指標：出展者数

成果指標：稼働率、利用者アンケートの満足度

関連計画：文化振興計画



② 発表の場としてのホールの活用

交流学習センターや各地域の公民館にあるホールを、市民の日頃の活動成果を発表する場としての利用を促し、活動意欲の向上を図ります。

目 標：交流学習センターや公民館ホールを発表の場として市民に提供し、活動意欲を高める

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：生涯学習課、図書館交流課

施策指標：利用者数

成果指標：稼働率、利用者アンケートの満足度



5.2.2 成果を生かした地域貢献

(1) 人材育成・活躍の機会

<現状・課題と方向性>

生涯学習の成果を他の人に発表するだけでなく、地域貢献に生かしていくことは、その活動に取り組む人にとって、より大きな活動継続のモチベーションにつながるだけでなく、本市のまちづくりや地域社会の発展のためにも有益です。

しかしながら、アンケート結果では「生涯学習で学んだことを何に役立てたいと思いますか」という問いかけに対しては、「健康維持、老化防止」や「自らの生きがいがづくり」などの項目は回答率が高いのに対して、地域貢献に直結するような項目の回答率は相対的に低い傾向にありました。ただそのなかでも「地域づくりの推進」や「社会福祉活動」と答えた人の割合はいずれも1割台で比較的高く、男女別にみると「地域づくりの推進」はどの年代でも男性の回答率が女性よりも高く、「社会福祉活動」は25歳以上では女性の回答率が男性よりも高い傾向がみられました。また、25～44歳の世代の女性は「地域の子どもたちへの学習活動」の回答率が2割を超えるなど、現に子育てに携わっている人が多いこの世代の特徴を反映した傾向もみられました。

このように、性別や世代によって関心のあるテーマが異なることも考慮しながら、生涯学習の成果を地域貢献につなげられるような人材育成や活躍の機会の創出を図っていくことが求められます。

生涯学習の学びから役立てたいこと（性別・世代別の回答率）

あなたは生涯学習で学んだことを何に役立てたいと思いますか。理想も含めてお聞かせください。

(%)

<複数回答>	全体		24歳以下の世代		25～44歳の世代		45～64歳の世代		65歳以上の世代	
	回答数	回答率	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
健康維持、老化防止	446	55.8	40.9	30.8	43.5	52.9	46.3	64.4	59.5	63.5
自らの生きがいがづくり	422	52.8	40.9	30.8	46.4	60.6	57.0	65.2	47.9	45.5
教養の向上	265	33.1	31.8	46.2	43.5	57.7	39.7	46.7	16.6	14.4
生活の安定・安全確保・質的向上	174	21.8	45.5	38.5	30.4	29.8	24.8	20.7	16.6	13.2
仕事や就職	114	14.3	59.1	46.2	36.2	27.9	15.7	10.4	1.8	2.4
地域づくりの推進	94	11.8	18.2	15.4	8.7	11.5	18.2	8.1	16.6	6.0
社会福祉活動	88	11.0	0.0	0.0	7.2	15.4	11.6	14.8	8.6	11.4
特になし・生涯学習に関心がないので答えようがない	80	10.0	4.5	15.4	8.7	4.8	5.8	7.4	14.1	15.6
地域の子どもたちへの学習活動	74	9.3	13.6	0.0	8.7	20.2	13.2	10.4	4.3	4.2
身近な自然環境や地域環境の保全	72	9.0	4.5	0.0	4.3	8.7	10.7	12.6	10.4	7.2
地域の伝統文化の継承	62	7.8	4.5	0.0	5.8	11.5	9.1	8.1	7.4	6.6
国際交流の発展	42	5.3	9.1	7.7	8.7	8.7	5.0	7.4	3.1	1.8
ガイドや指導者としての活動	32	4.0	4.5	0.0	4.3	6.7	4.1	4.4	3.1	2.4
その他	6	0.8	0.0	7.7	1.4	0.0	0.0	0.7	1.8	0.0
回答数	800		22	13	69	104	121	135	163	167

回答率による色分けの凡例:

0	20	40	60	80	100
---	----	----	----	----	-----

※アンケート結果より

<施策内容>

① 自主防災会長・自主防災リーダー研修会の開催

防災啓発活動や日頃の防災に関する学びに取り組む人向けに、自主防災会長・自主防災リーダー研修会を開始し、地域の自主防災組織でリーダーとして活躍できる人材の育成を図ります。

目 標：地域の自主防災組織で活躍できるリーダーを育てる

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：危機管理課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：訓練実施組織数

関連計画：地域防災計画

② ジュニア・リーダー養成講座の開催

ジュニア・リーダー養成講座の開催を継続して、大人と子どもの架け橋となって地域で活躍できる子どもの養成を図ります。この講座では長期的な視点で、段階的に育成できるプログラムを実施するとともに、実際に地域で活躍できる場面をつくり、地域の人々に活動内容や講座の成果を伝えられるように努めます。

また、ジュニア・リーダーの講師となる人材の確保も図ります。

目 標：大人と子どもの架け橋となり、地域で活躍できる子どもを育成する

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：生涯学習課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：ジュニア・リーダー人数



③ 青少年スポーツ指導者講習会の開催

青少年がスポーツを安全に楽しみながら学んでもらうために、適切な指導を行える青少年スポーツ指導者の講習会を開催します。

各競技団体で実施している指導者講習会と役割分担をして、技術的な指導者よりも、競技種目を問わず、基礎体力づくりや全体のコーディネートができる人材育成を目指すとともに、指導者の候補となる人材の確保にも努めます。

目 標：スポーツ指導者を育成する

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：生涯学習課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：青少年スポーツ指導者人数

関連計画：スポーツ推進計画

④ 読み聞かせボランティアの育成

想像力や言語能力の向上、感情を豊かにするなどの効果が期待される読み聞かせボランティアの育成を図ります。

学習成果を生かす場として、子育てサポート活動での活躍や子育て世代に向けての読み聞かせのコツなど教える講師としての活躍を図ります。

目 標：読み聞かせのボランティアを育成する

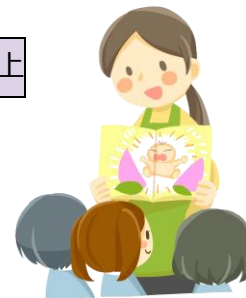
対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：図書館交流課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：読み聞かせボランティア人数

関連計画：図書館基本計画



⑤ 図書館ボランティア研修会の開催

読み聞かせ活動のみならず、図書の整理や貸出・返却等の支援を含め、図書館の環境づくりに寄与する図書館ボランティアを育成する研修会を開催し、知識を深めて、市内各地域の図書館での活躍を図ります。

目 標：図書館ボランティアの知識を深める研修会を開催する

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：図書館交流課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：アンケート満足度

関連計画：図書館基本計画

⑥ 安曇野市コミュニティスクール事業の実施

学校と地域や保護者が力を合わせ、子どもたちの学びや健全な成長を支援する取り組みとして、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともに作る学校」を目指します。学校の要請に応じ、支援される地域の方々の経験・技術を役立てられる環境づくりを推進します。

目 標：学校活動を支援する者をボランティアとして登録し、学校の要請に応じ活用する

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：学校教育課

施策指標：事業申込数

成果指標：ボランティア活用数

関連計画：安曇野市教育大綱

⑦ スポーツマイスター制度（仮称）の実施

各スポーツに関してとくに優れた技能を有する者をスポーツマイスターとして登録し、市民のニーズに応じて活躍できるスポーツマイスター制度（仮称）を実施します。

目 標：技能を持つ者をスポーツマイスターとして登録し、活用する

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：生涯学習課

施策指標：登録者数

成果指標：マイスター活用数

関連計画：スポーツ推進計画

⑧ リーダーバンク制度の活用

スポーツや芸術など各分野に精通している方を人材として登録しているリーダーバンク制度を生かして、とくに地域の自然や考古、歴史、民俗等の成り立ちに関する知識を有する人材の登録を促し、地域の魅力を人々にわかりやすく伝えられるガイドや、地域づくりを主導できるリーダーとして育成するための講座やプログラムの充実を図ります。

目 標：地域に関する知識や技能を持つ者を登録し、活用する

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：生涯学習課

施策指標：登録者数

成果指標：リーダー活用数

⑨ 健康づくり推進員の活動拡充

生涯学習に取り組む上で必要な自己の健康の維持・増進を図るために、各地域で健康づくりの取り組みを広げる健康づくり推進員を育成し、活動を広げます。

目 標：健康づくり推進員が地域において活動する

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：健康推進課

施策指標：地区活動回数、参加者数

成果指標：推進員活動回数

関連計画：健康づくり計画



⑩ 手話奉仕員養成講座の開催

日常会話に必要な手話技術を習得するための手話奉仕員の養成講座を開催し、聴覚障がい者のコミュニケーションサポーターとしての活躍を図ります。

目 標：日常会話に必要な手話技術を習得するための手話奉仕員の養成講座を開催する

対象世代：－

担 当 課：福祉課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：アンケート満足度

関連計画：障害福祉計画



⑪ 日赤奉仕団活動に伴う訓練、講習会等の開催

日赤奉仕団活動としての訓練や講習会等を開催し、災害時に奉仕活動できるリーダーを育成します。

目 標：災害時に奉仕活動ができるリーダーを育てる

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：長寿社会課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：訓練参加者数

関連計画：地域福祉計画



(2) 自主活動支援

<現状・課題と方向性>

生涯学習の成果を地域貢献に生かしていくためには、行政側からその機会の提供を図るだけでなく、地域貢献に資する自主的な活動の支援も重要です。

現状ではそうした活動支援が十分といえない面もあるため、市民が必要とするサービス内容を随時把握して、的確な支援策を展開していく必要があります。

<施策内容>

① 自主サークル設立支援

生涯学習の一貫として市民が主体的にサークルを立ち上げ、自主的な生涯学習の取り組みを全市に展開していくために、自主サークルの設立を支援します。

目 標：市民が継続的に自主活動できるように支援する

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：生涯学習課 社会教育担当

施策指標：設立団体数、加入者数

成果指標：自主サークル継続活動数

② 市民活動サポートセンターの充実

様々な生涯学習の市民活動を支援し、活動の促進を図るとともに、市民と行政、その他団体等との連携・協働を促す市民活動サポートセンターの充実を図ります。

目 標：市民活動を支援・促進し、協働を推進する

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：地域づくり課

施策指標：講座開催数、通信発行回数

成果指標：登録団体数

③ 図書館ボランティアの主体的な活動

図書館ボランティアが活躍できる様々な事業展開を図り、主体的に活動できる場を広げます。

目 標：図書館ボランティアが主体的に事業を実施する

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：図書館交流課

施策指標：図書館サポーター数

成果指標：サポーター主体事業実施数

関連計画：図書館基本計画

第6章 本計画の進め方

6.1 総合的な推進体制の継承 ～各主体の役割の明確化～

本計画の推進にあたっては、第1次生涯学習推進計画策定時に構築した総合的な体制を継承し、市民等との連携・協働を軸に、庁内で計画の進捗管理を行う生涯学習推進本部と計画の進捗状況の確認を行う生涯学習推進市民会議が両輪となって、関係する庁内各課や附属機関・行政機関と連携を図りながら計画を進めます。

右図に示す体制を念頭に、各主体の果たす役割を以下に示します。

(1) 生涯学習推進本部

生涯学習推進本部は、関係各課を構成員とする庁内組織で、計画の進捗管理のほか、関係各課の関連施策との調整を図りながら、本計画に基づく個別施策の実施方針や重点施策等を決定し、関係各課に必要な事業展開を指示するとともに、市民等の意向を把握して、個別施策及び計画全体の効果の分析・評価を行い、必要に応じた計画を見直し、改善を図ります。

(2) 生涯学習推進市民会議

生涯学習推進市民会議は、市民や関係する附属機関・行政機関の代表者らで構成する組織で、定期的に計画の進捗状況の確認を行い、生涯学習推進本部と連携して、計画推進に関わる事項の決定に際しての検討や、個別施策及び計画全体の効果の確認・検証を行い、必要な提言を行います。

(3) 関係各課

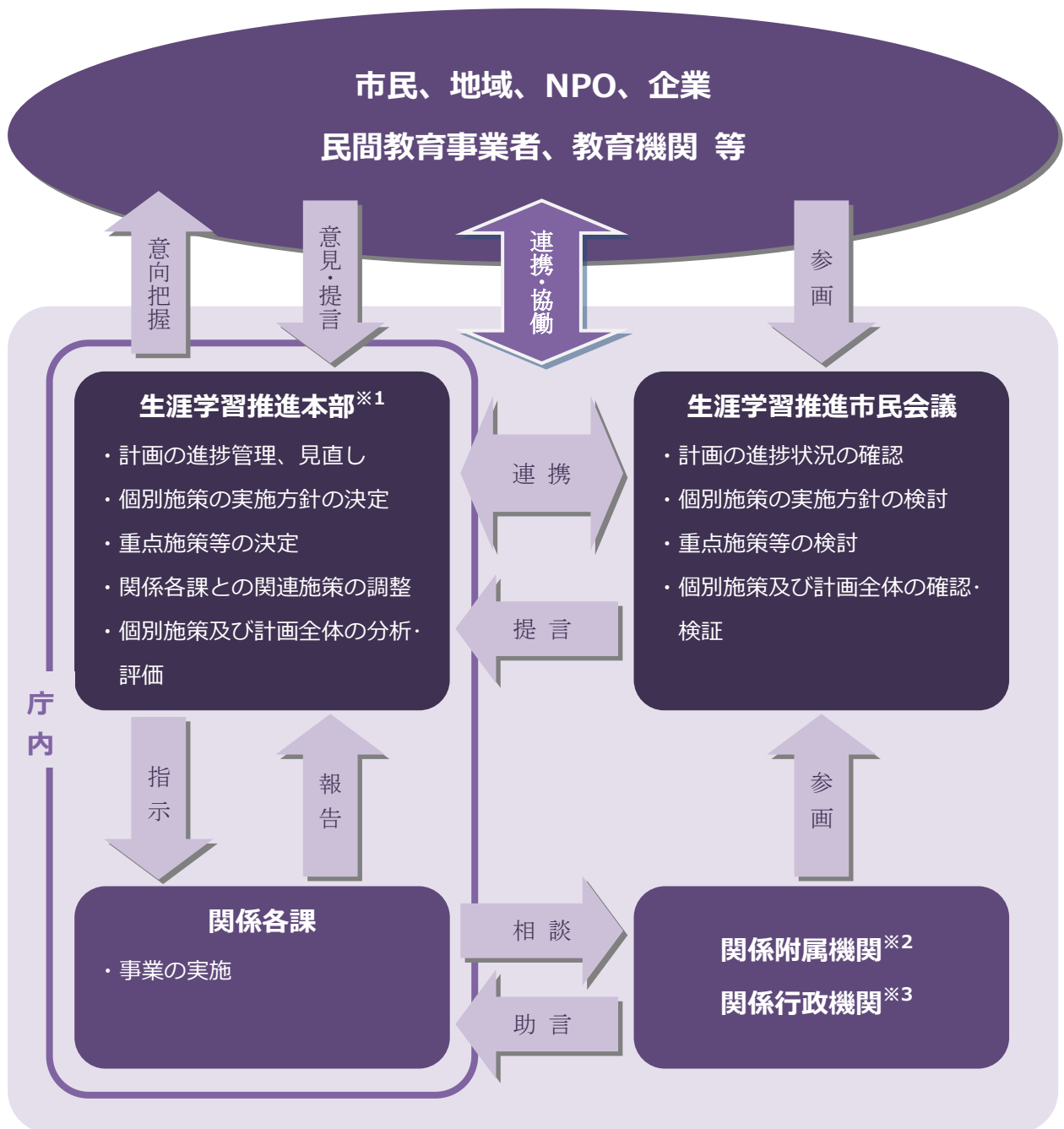
関係各課は、本計画に基づく事業の主体として、生涯学習推進本部の指示を踏まえ、計画の目的や個別施策の目標に沿って事業を実施します。

(4) 関係する附属機関・行政機関

関係する附属機関・行政機関は、計画の進捗管理や事業実施に際し、生涯学習推進本部や関係機関からの相談に応じて、必要な助言を行います。また、生涯学習推進市民会議にも参画して、計画の推進と改善に努めます。

(5) 市民等の役割

生涯学習の取り組み主体である市民は、意向調査や生涯学習推進市民会議への参画を通じて、計画や事業に対する意見・提言も行うとともに、地域、NPO、企業、民間教育事業者、教育機関等とともに、計画の推進と改善に努めます。



※1 生涯学習推進本部の構成員

危機管理課、人権男女共同参画課、地域づくり課、環境課、福祉課、子ども支援課、健康推進課、文化課、図書館交流課、生涯学習課（事務局）

※2 社会教育委員の会など社会教育関係の附属機関

※3 国や県の行政機関

本計画の推進体制

6.2 計画管理の手法 ～計画の実効性の担保～

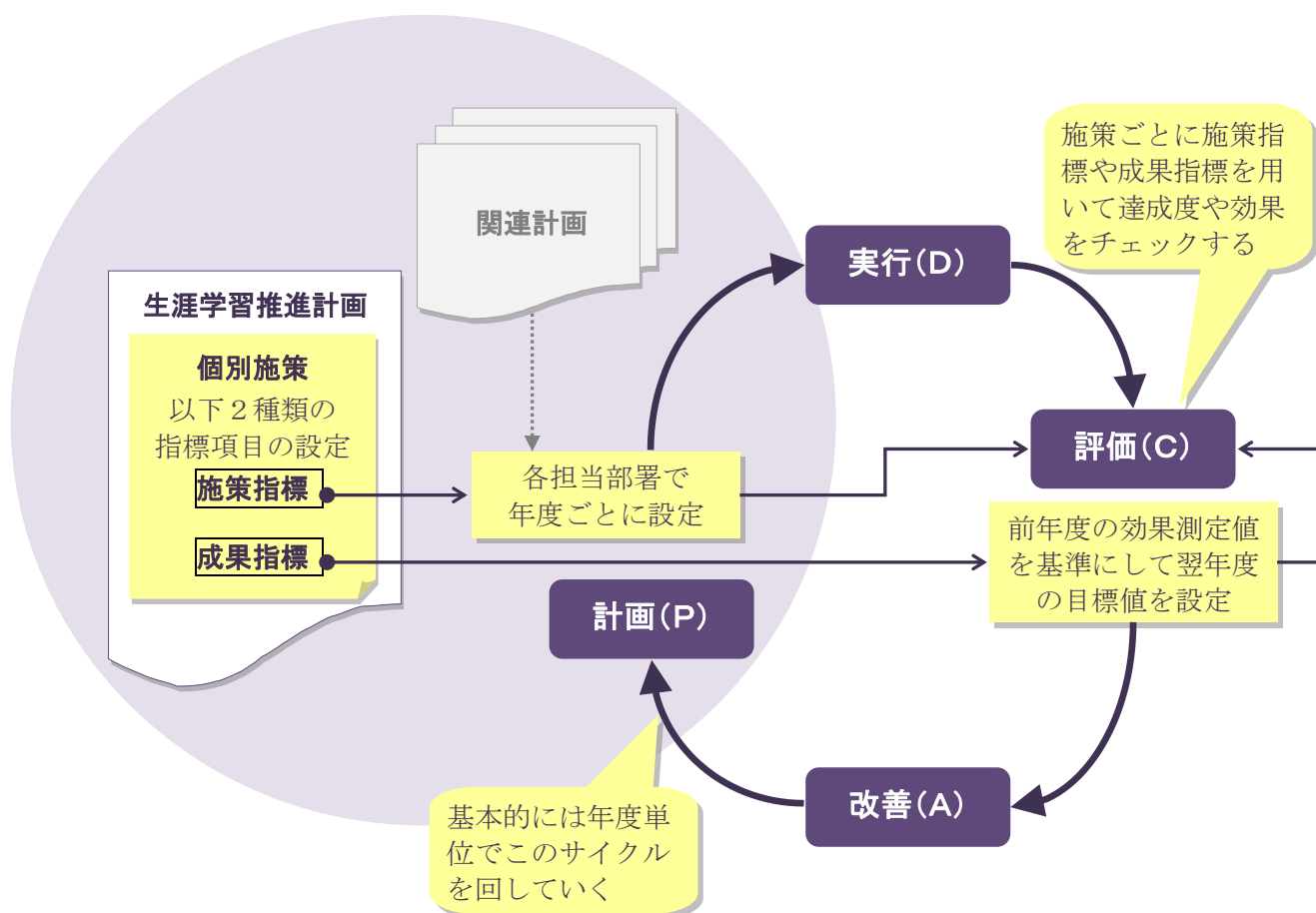
本計画の実効性を担保するための計画管理の手法を示します。

(1) 個別施策の管理手法

第5章に示した個別施策には、施策ごとにその達成度を測る指標（施策指標）と、施策の効果を測る指標（成果指標）の項目を定めました。

施策指標は、関連計画に記載のある施策であればその内容も踏まえて、各担当部署で年度ごとに目標数値を定め、PDCA サイクル^{巻末9}で、達成状況を確認しながらその進捗を管理します。成果指標については、施策実施後のアンケートなど施策ごとに的確に効果を捉えられる手法で数値化を図り、施策内容の改善につなげます。

したがっていずれの指標も、前年度の実施状況とその効果を検証・評価したうえで、必要に応じた施策内容の改善を図りながら、随時、目標数値を定めるプロセスを基本とします。



個別施策の管理手法

(2) 計画全体の包括的な評価手法

第5章の施策展開に示す施策の小分類単位で、個別施策の展開による包括的な効果を定期的に評価するための指標（包括的評価指標）を以下のとおり定めます。

これらの指標は住民による評価を基本とし、原則として、本計画策定時のアンケートと同様の設問で、前期5か年の満了時及び後期5か年の満了時にそれぞれ実施するものとします。なお、前期5か年の満了時には必要に応じて、目標数値等の見直しを行います。

5.1 学習機会の充実

5.1.1 生涯学習に取り組みやすい環境づくり

(1) 情報の発信・提供

包括的評価指標その1	現状 (H28)	目標 (H39)
「生涯学習」という言葉の認知度 ^{注1)}	30.4%	40%

注1) 問「生涯学習という言葉の意味を知っているか」に対する「そう思う」・「ややそう思う」の回答率

(2) 妨げ要因への対応

包括的評価指標その2	現状 (H28)	目標 (H39)
過去5年間の生涯学習の取り組みの有無 ^{注1)}	43.6%	54%

注1) 問「この5年くらいの間に、生涯学習の取り組みをしたか」に対する「はい」の回答率

5.1.2 生涯学習の機会の提供

(1) 分野に応じた学習機会

包括的評価指標その3	現状 (H28)	目標 (H39)
仕事に役立つ知識・技術の学習機会の充実度 ^{注1)}	9.3%	19%
情報化に対応するための学習機会の充実度 ^{注2)}	8.9%	19%
環境問題の学習機会の充実度 ^{注3)}	13.4%	23%
安全・安心な地域づくりの学習機会の充実度 ^{注4)}	16.8%	27%
人権理解のための学習機会の充実度 ^{注5)}	18.6%	29%

注1) 問「仕事に役立つ知識や技術を身に付ける学習の機会が充実しているか」に対する「そう思う」・「ややそう思う」の回答率

注2) 問「情報化に対応するための学習の機会が充実しているか」に対する「そう思う」・「ややそう思う」の回答率

注3) 問「環境問題について学習する機会が充実しているか」に対する「そう思う」・「ややそう思う」の回答率

注4) 問「安心・安全な地域づくりのための学習の機会があるか」に対する「そう思う」・「ややそう思う」の回答率

注5) 問「人権について正しく理解するための学習の機会があるか」に対する「そう思う」・「ややそう思う」の回答率

(2) 年代に応じた学習機会

包括的評価指標その4	現状 (H28)	目標 (H39)
24歳以下の世代における過去5年間の生涯学習の取り組みの有無 ^{注1)}	男性：31.8% 女性：23.1%	男性：42% 女性：33%
25～44歳の世代における過去5年間の生涯学習の取り組みの有無 ^{注2)}	男性：39.1% 女性：49.0%	男性：49% 女性：59%
45～64歳の世代における過去5年間の生涯学習の取り組みの有無 ^{注3)}	男性：47.9% 女性：50.4%	男性：58% 女性：60%
65歳以上の世代における過去5年間の生涯学習の取り組みの有無 ^{注4)}	男性：41.7% 女性：40.1%	男性：52% 女性：50%

注1～4) いずれも問「生涯学習という言葉の意味を知っているか」に対する「はい」の回答率

5.1.3 利用満足度の高い施設運営

(1) 施設の運営

包括的評価指標その5	現状 (H28)	目標 (H39)
生涯学習施設の管理・運営に対する満足度 ^{注1)}	27.1%	33%

注1) 問「市立の各生涯学習施設は、市職員が適切に管理・運営しているか」に対する「そう思う」・「ややそう思う」の回答率

(2) 施設環境の整備

包括的評価指標その6	現状 (H28)	目標 (H39)
学習環境の整備に対する満足度 ^{注1)}	15.8%	31%

注1) 問「誰もが学習に参加しやすい環境が整っているか」に対する「そう思う」・「ややそう思う」の回答率

5.2 学習成果の活用

5.2.1 成果発表の機会の創出

(1) 成果発表の機会の提供

包括的評価指標その8	現状 (H28)	目標 (H39)
学習成果の発表機会に対する満足度 ^{注1)}	20.1%	26%
市民同士の交流に対する満足度 ^{注2)}	16.4%	22%

注1) 問「学習した成果を発表する機会があるか」に対する「そう思う」・「ややそう思う」の回答率

注2) 問「市民同士の交流が盛んに行われているか」に対する「そう思う」・「ややそう思う」の回答率

(2) 成果発表の場所の提供

包括的評価指標その9	現状 (H28)	目標 (H39)
公民館の学習・交流の場としての活用度 ^{注1)}	42.3%	52%
交流学習センターの活用度 ^{注2)}	35.3%	45%

注1) 問「公民館は地域の学習・交流の場としての役割を果たしているか」に対する「そう思う」・「ややそう思う」の回答率

注2) 問「交流学習センターは市民活動の場として活用されているか」に対する「そう思う」・「ややそう思う」の回答率

5.2.2 成果を生かした地域貢献

(1) 人材育成・活躍の機会

包括的評価指標その10	現状 (H28)	目標 (H39)
学習成果の地域還元に対する満足度 ^{注1)}	10.5%	16%
リーダーバンク制度の充実に対する満足度 ^{注2)}	7.4%	13%

注1) 問「生涯学習の成果である知識や技能が地域に還元されているか」に対する「そう思う」・「ややそう思う」の回答率

注2) 問「リーダーバンク制度が充実しているか」に対する「そう思う」・「ややそう思う」の回答率

(2) 自主活動支援

包括的評価指標その11	現状 (H28)	目標 (H39)
ボランティア活動に取り組める環境整備に対する満足度 ^{注1)}	19.6%	25%

注1) 問「ボランティア活動に積極的に取り組める環境が整っているか」に対する「そう思う」・「ややそう思う」の回答率

※包括的評価指標の分類は第5章の施策分類と対応

付属資料

資料1 計画策定の主な経過

資料2 計画策定に係る委員会等

資料3 用語解説

資料 1 計画策定の主な経過

■ 第2次安曇野市生涯学習推進計画策定委員会

開催回数	開催年月日 (討議形式)	内 容
第1回	平成29年4月27日 (全体討議)	・委員の委嘱 ・スケジュールの確認 ・第1次計画の問題点と現在の状況
第2回	平成29年5月30日 (グループ討議)	・計画体系の確認 ・基本理念の案 ・基本目標、施策の柱・内容案
第3回	平成29年7月12日 (全体討議)	・基本理念の確認 ・基本目標、施策の柱・内容決定 ・具体的な取り組みの検討その1
第4回	平成29年8月18日 (グループ討議)	・具体的な取り組みの検討その2
第5回	平成29年11月9日 (全体討議)	・第2次計画素案の検討 ・具体的な取り組みの決定 ・主要施策・施策の評価方法の決定
第6回	平成29年11月30日 (全体討議)	・第2次計画案の決定 ・公表までのスケジュール
第7回	平成30年2月2日 (全体討議)	・第2次計画案の修正箇所の確認

■ アンケート

調査期間	平成28年11月16日～平成28年11月30日
調査対象	安曇野市内在住の18歳以上の住民2,500人（層化無作為抽出）
調査結果	回収数：800通（回収率：32%）

■ 意見募集（パブリックコメント）

募集期間	平成29年12月20日～平成30年1月19日
------	------------------------

資料2 計画策定に係る委員会等

■ 第2次安曇野市生涯学習推進計画策定委員会設置要綱

平成28年12月27日教育委員会告示第10号

(設置)

第1条 第2次安曇野市生涯学習推進計画（以下「計画」という）の策定に係る提言をするため、第2次安曇野市生涯学習推進計画策定委員会（以下「委員会」という）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会の所掌事務は、次に掲げるものとする。

- (1) 計画の策定に関すること。
- (2) 計画に係る市民からの意見の分析に関すること。
- (3) その他計画の策定に必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会の委員は15人以内とし、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

- (1) 生涯学習に関する見識を有する者
- (2) 学校教育関係者
- (3) 社会教育関係者
- (4) 家庭教育関係者
- (5) 安曇野市社会教育委員
- (6) 市内の生涯学習に関する団体の関係者
- (7) その他教育委員会が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、計画策定の日までとする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員が互選する。

- 2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会は委員長が招集し、委員長が議長となる。

- 2 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 4 委員長が必要と認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、その意見を聴き又は説明を求めることができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、教育委員会教育部生涯学習課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この告示は、平成29年1月1日から施行する。

第2次安曇野市生涯学習推進計画策定委員会委員名簿

◎：委員長 ○：副委員長

区 分	氏 名	備 考
生涯学習に関する見識を有する者	◎宮下 健司	元長野県立歴史館総合情報課長
学校教育関係者	小林 栄子	安曇野市校長会選出 穂高西小学校長
社会教育関係者	安井 邦夫	明科公民館長
	宮下 克彦	高橋節郎記念美術館長
	百瀬 佳子	堀金図書館長
	幅 修一	元社会教育指導員
家庭教育関係者	上兼 裕	安曇野市社会福祉協議会職員
	亀井 智泉	おはなし つむぎいと代表
安曇野市社会教育委員	○平田 米子	副議長
	平倉 勝美	委員
市内の生涯学習に関する団体の関係者	降旗 幸子	芸術文化協会連絡協議会会長
	古川 節雄	体育協会 専務理事
その他教育委員会が必要と認める者	三澤 禮司	放課後子ども教室ボランティア
	堀金 隆雄	生涯学習講座受講者
	舟橋 嘉奈子	リーダーバンク登録者

(敬称略)

■ 第2次安曇野市生涯学習推進計画策定プロジェクト会議設置規程

平成28年8月24日教育委員会訓令第3号

(設置)

第1条 第2次安曇野市生涯学習推進計画（以下「計画」という）策定に当たり、計画の基本方針や推進する施策等を検討するため、第2次安曇野市生涯学習推進計画策定プロジェクト会議（以下「会議」という）を設置する。

(所掌事務)

第2条 会議の所掌事務は、次に掲げるものとする。

- (1) 計画の策定に必要な調査研究に関すること。
- (2) 計画により推進する施策等に関すること。
- (3) 計画の策定に係る部局との連絡調整に関すること。
- (4) その他計画の策定に必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 会議は、会長、副会長及び委員をもって組織する。

- 2 会長は教育部長を、副会長は生涯学習課長を、委員は別表に掲げる職にある者をもってこれに充てる。
- 3 会長は、会議を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第4条 会議は、会長が招集し、会議の議長となる。

- 2 会議は、構成員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

(事務局)

第5条 会議の事務局は、生涯学習課に置く。

(その他)

第6条 この規程に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、会長が会議に諮って別に定める。

附 則

この訓令は、公布の日から施行する。

第2次安曇野市生涯学習推進計画策定プロジェクト会議構成員

部局名	課名	職名
総務部	危機管理課	危機管理担当係長
総務部	人権男女共同参画課	人権男女共生担当係長
政策部	情報統計課	情報政策係長
市民生活部	地域づくり課	まちづくり推進係長
市民生活部	環境課	環境政策係長
福祉部	長寿社会課	福祉政策担当係長
保健医療部	健康推進課	保健予防係長
教育委員会教育部	学校教育課	学校教育係長
教育委員会教育部	生涯学習課	社会教育担当係長
教育委員会教育部	生涯学習課	スポーツ推進担当係長
教育委員会教育部	文化課	文化振興係長
教育委員会教育部	文化課	博物館係長
教育委員会教育部	図書館交流課	図書館交流担当係長

■ 安曇野市生涯学習推進本部設置要領

(設置)

第1 安曇野市生涯学習推進計画に基づき、当該計画の進行管理を行なうとともに、生涯学習推進市民会議などの意見や提言を踏まえて、年度ごとに重点施策及び実施方針を設定し、施策の実現を図るため、安曇野市生涯学習推進本部（以下「本部」という）を設置する。

(任務)

第2 本部は、次に掲げる事項を実施する。

- (1) 安曇野市生涯学習推進計画の進行管理
- (2) 重点施策の決定
- (3) 実施方針の決定
- (4) 事業実施の評価
- (5) 庁内各課の調整・報告

(組織)

第3 本部は、本部長、副本部長及び委員をもって組織する。

- 2 本部に本部長1人、副本部長1人を置き、本部長は教育部長を、副本部長は生涯学習課長を、委員は別表に掲げる職にある者をもってこれに充てる。
- 3 本部長は、本部を代表し、会務を総理する。
- 4 副本部長は、本部長を補佐し、本部長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第4 本部の会議は、本部長が招集し、会議の議長となる。

- 2 本部の会議は、構成員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

(事務局)

第5 本部の事務局は、生涯学習課に置く。

(その他)

第6 この要領に定めるもののほか、本部の運営に関し必要な事項は、本部長が本部の会議に諮って別に定める。

附 則

この要領は、平成26年8月6日から施行する。

安曇野市生涯学習推進本部構成員

部局名	課 名	職 名
総務部	危機管理課	危機管理担当係長
総務部	人権男女共同参画課	人権男女共生係長
市民生活部	地域づくり課	まちづくり推進係長
市民生活部	環境課	環境政策係長
市民生活部	穂高支所地域課	地域担当係長
福祉部	長寿社会課	福祉政策担当係長
福祉部	長寿社会課	長寿福祉係長
福祉部	子ども支援課	児童係長
保健医療部	健康推進課	保健予防係長
教育委員会教育部	文化課	文化振興係長
教育委員会教育部	文化課	博物館係長
教育委員会教育部	図書館交流課	図書館交流担当係長
教育委員会教育部	生涯学習課（事務局）	社会教育担当係長
教育委員会教育部	生涯学習課（事務局）	スポーツ推進担当係長
教育委員会教育部	生涯学習課（事務局）	社会教育担当

資料3 用語解説

番号	用語 →出現ページ	解説
1	ICT →P4,15,27,38	Information and Communication Technology の略で、情報通信技術と訳される。コンピュータやインターネットを介して行う情報処理や通信に関する総合的な技術を示す言葉で、IT（情報技術）とほぼ同義だが、ICT は情報の共有や伝達などコミュニケーションの重要性を伝える意図で近年よく用いられている。
2	SNS (Facebook や Twitter など) →P4,9,11,15,16,19	Social Networking Service (ソーシャル・ネットワーキング・サービス) の略。インターネットを介して提供されているサービスで、個人や企業・組織の職員等がメッセージや写真などを投稿し、特定のあるいは不特定多数の人々がそれらを閲覧・共有することができ、様々な交流や情報発信の手段にもなっている。主なサービスとして、Facebook (フェイスブック) や Twitter (ツイッター)、LINE (ライン)、Instagram (インスタグラム) などがある。
3	CSR →P5	Corporate Social Responsibility の略で、企業の社会的責任と訳される。企業が自社の利益の追求だけでなく、法令遵守や情報提供、環境への配慮、地域社会に貢献する活動など倫理観に基づく主体的な行動や取り組みを通じて社会に対して果たす責任。
4	IT →P15,27	Information Technology の略で、情報技術と訳される。ICT (情報通信技術) とほぼ同義であるが、これとの対比で IT は、コンピュータやインターネットの技術そのものを指す言葉として使い分けられる場合もある。
5	アウトリーチ →P15,29	公的機関や公共的文化施設などが地域に向いて行うサービスのこと。生涯学習の分野では、学習要求を持っていない人々に対して学習機会を提供し、学習要求や学習行動を引き起こす効果をもつ取り組みとして着目されている。
6	レセプションист →P15, 37	受付業務や応接業務、会場案内業務、パーティーの企画などを行う人。
7	歴史史資料 →P29	歴史史料又は歴史資料。歴史に関する調査・研究で、作成当時の文書・記録類の現物又は当時の形のま印刷されたものなど「史料」といい、当時の文書・記録類を用いてまとめた論文などを「資料」という。
8	Wi-Fi (公衆無線 LAN) →P39	無線 LAN (は Wi-Fi (ワイファイ: 無線 LAN の規格名称) と呼ばれ、ノートパソコンやタブレット端末、スマートフォンなど様々な情報通信機器から無線で (電波を利用して) インターネットに接続できるネットワークのこと。これを公共空間などで不特定多数の人が利用できるようにしたものが「公衆無線 LAN」で、そのサービスを提供している場所を「フリースポット」や「Wi-Fi スポット」などと呼ぶ。
9	P D C A サイクル →P54	Plan (計画) - Do (実行) - Check (評価) - Act (改善) の4段階の頭文字をとったサイクルで、事業活動の管理業務を円滑に進めるための手法の一つ。これを繰り返すことで、業務を継続的に改善していくという考え方に基づく。



第2次安曇野市生涯学習推進計画

平成 30(2018)年3月

発 行 安曇野市

編 集 安曇野市教育委員会教育部生涯学習課

〒399-8281 長野県安曇野市豊科 6000 番地

TEL:0263-71-2000(代) FAX:0263-71-5000
